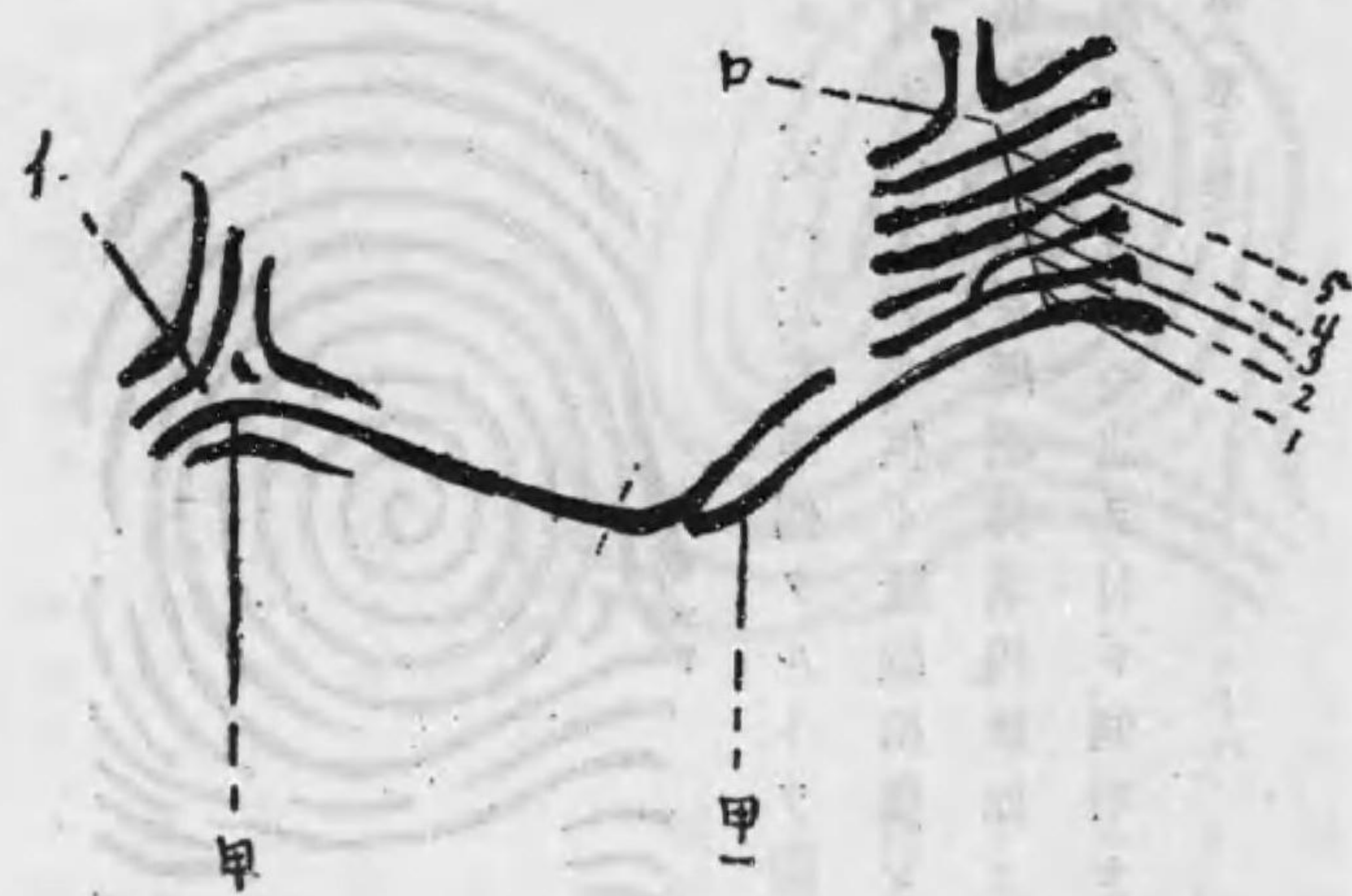


第九十圖

下流渦狀紋



右側標準角ノ基點(ロ)ヨリ追跡線ニ向ツテ畫キタル直線ニ觸ルル隆線ハ1, 2, 3, 4, 5ノ五個ナルモ線數計算上, 5ハ標準角トシテ之ヲ除外スヘク即チ1, 2, 3, 4ノ四個ナリ

又本指紋カ左手示指ナリトセハ標準角ハ左側(イ)及右側(ロ)共ニ並行スルニ依リ其ノ副番號ハ四ナリ(第一章五ノ四同)

線ニ觸ルル隆線ハ1ト2ノ二個ナリ。茲ニ注意スヘキハ2ノ線カ分岐スル爲メ之ヲ二線ト認メ結局直線ニ觸ルル線ヲ三個ナリト計算スルハ不可ナリ。即チ分岐點ニ直線カ觸ルルトキハ之ヲ一線ト計算セサルヘカラス(同第一章ノ八)

又本指紋カ左手示指ナリトセハ標準角ハ左側(イ)並行シ右側(ロ)接合スルニ依リ其ノ副番號ハ三ナリ(同第一章五ノ三)

第九十圖ハ下流渦狀紋ヲ示セリ(同第四章六ノ三)。(イ)ハ左側標準角ノ基點ニシテ(ロ)ハ右側標準角ノ基點ナリ。左側標準角(イ)ノ下部ノ一邊ヲ成セル隆線即チ甲ナル追跡線ノ下部ニ相接シテ甲一ナル隆線新タニ生セリ。此場合ニ於テハ分岐線ト同様ニ甲一ナル線ヲ追跡スルヲ要ス(同第四章ノ一二)。甲及甲一ナル線ハ本指紋ノ追跡線ニシテ即チ下出線ナ

圖一十九第

紋狀渦ルセ如缺角準標



第九十一圖ハ標準角ノ
 缺如セル渦狀紋ヲ示セ
 リ(同第四章六ノ第二項)、左側
 標準角ヲ有スルモ右側
 標準角ナシ、渦狀紋ニシ
 テ標準角缺如セルモノ
 ハ其ノ左側タルト又其

ノ右側タルト、又ハ左右兩側タルトヲ問ハス之ヲ下流渦狀紋ト看做シ
 九ノ價ヲ付スヘキナリ、但シ隆線損傷シタル爲メ標準角ヲ見出スコト
 能ハサル場合ハ茲ニ所謂標準角缺如ト其ノ趣ヲ異ニセリ、其ノ場合ハ
 其ノ價判明スルモノハ之ヲ付シ、判明セサルモノハ◎ト爲スヘキハ勿
 論ナリ(同第一章ノ四)

圖二十九第

紋狀渦ル有ヲ角外ノ個三



第九十二圖ハ三個ノ外角ヲ有ス
 ル渦狀紋ヲ示セリ、此場合ニ於ケ
 ル標準角ハ兩端ニ在ル外角ニ就
 テ定メサルヘカラス(同第四章ノ四)、
 從テ中央ニ在ル外角(ロ)ハ標準角
 ト爲スヘキニアラス、即チ(イ)ハ左
 側標準角ニシテ(ハ)ハ右側標準角ナリ
 三個ノ外角ヲ有スヘキ指紋ニ
 シテ其ノ左側若クハ右側ノ外角

カ缺如セル場合ハ殘レル二個ノ外角ニ依リ標準角ヲ定メ價ヲ付スヘ
 キモノニシテ、外角缺如ノ理由ノ下ニ直ニ下流渦狀紋ト看做スヘキニ
 アラス、但シ左右兩端ノ外角缺如シ一個トナリタルトキハ之ヲ下流渦
 狀紋ト看做シ九ノ價ヲ付スヘキモノトス(同第四章六ノ第二項)

圖三十九第

線跡追ルセ曲聯



邊ヲ成ス追跡線ニシテ、乙ノ點ニ於テ右側標角導ト相對シ、聯曲シテ丙

第九十三圖ハ追跡線カ右側標準角ノ上方(若ハ内側)ニ出テ尙聯曲シテ再ヒ該標準角ノ上方(若ハ内側)ニ出テタル場合ヲ示セリ、此場合ニ於テハ最初標準角ノ上方(若ハ内側)ニ出テタルトキ線數計算ヲ爲スヘキナリ(同第四章ノ一三)從ツテ聯曲シテ再ヒ出テタル線カ標準角ニ近ツクコトアルモ、之ヲ追跡線ト爲スヘキニアラス

甲ハ左側標準角ノ下部ノ一

導ト相對シ、聯曲シテ丙

ノ點ニ於テ再ヒ相對スルコトアルモ、乙ノ點ト右側標準角ノ間ニ介在スル線數ヲ計算スルモノトス、即チ其ノ數二個ナリ

第二章 分類法改正要綱

指紋分類上ニ關シ假令良法ト信スヘキ新事實ヲ發見スルコトアルモ根本ニ觸レタル改正ヲ企ツルカ如キハ事情ノ許ササル所ナリ然レトモ何人モ惑フ指紋ノ如キ又ハ線數計算ニ關スル基礎不明瞭ナルモノノ如キ又ハ運用上必要ナキ指紋ニ對シ多クノ種別ヲ設ケアルモノノ如キハ指紋分類ノ一定ヲ期センカ爲此際改正ヲ加ヘタリ即チ改正ノ要綱次ノ如シ

第一 弓狀紋

- 一、從來弓狀紋ヲ普通弓狀紋ト突起弓狀紋ノ二種ニ區別シアリシヲ單ニ弓狀紋ト改メ

タルコト

從來弓狀紋ヲ普通弓狀紋ト突起弓狀紋ノ二種ニ別チ而シテ突起弓狀紋トハ弓狀ヲ成セル隆線カ著シク突起シタル場合ノ名稱ナリ故ニ弓狀線カ著シク突起スルニ至ラスシテ稍々突起シタル弓狀紋即チ普通弓狀紋ト突起弓狀紋トノ中間ニ在ル指紋ノ如キハ其ノ何レニ屬セシムヘキヤ之ヲ區別スルコト頗ル困難ナリ加之普通弓狀紋モ亦突起弓狀紋モ指紋上ノ價ハ等シク一ナレハ二種ノ名稱ヲ廢シ單ニ弓狀紋ト改メタリ

第二 蹄狀紋

- 一、蹄線ヲ有スル指紋ハ總テ蹄狀紋ト爲シタルコト (解説第十四圖乃至第十八圖參照)

從來蹄線ヲ有スル指紋中、弓狀紋ニ屬セシメタルモノアリシモ、蹄線ヲ有スル指紋ハ總テ蹄狀紋ト爲スコトニ改メタリ

從來ノ分類法ハ蹄線ヲ有スルモ外端ト内端トノ間ニ計算スヘキ隆線ナキ指紋、又ハ内端アルモ外端ナキ指紋ハ之ヲ弓狀紋ト爲セリ、之唯乙種蹄狀紋ニ對シテノミナラス、線數計算ノ必要ナキ甲種蹄狀紋ノ場合モ亦同様ナリシ、斯ル指紋ハ外端ト内端ト相接近シ居ルカ爲甲分類者ハ計算スヘキ隆線ナシト解スル指紋モ、乙分類者ハ之アリトスル場合決シテ尠カラス、即チ甲ハ弓狀紋トシテ一ノ價ヲ付シ、乙ハ乙種蹄狀紋トシテ三ノ價(甲種蹄狀紋ナレハ二ノ價)ヲ付スルニ至ルヘシ、故ニ此機ニ於テ蹄線ヲ有スル指紋ハ假令計算スヘキ隆線ナキモノト雖、總テ蹄狀紋ト爲シ評價ノ一定ヲ期セント欲シタリ

附記、從來蹄線カ拇指側ヨリ起リ拇指側ニ終レル指紋ハ、外端ト内端トノ間ニ隆線ヲ有セサルモ之ヲ甲種蹄狀紋ト爲セルコトアリ、又

外端ト内端トノ間ニ計算スヘキ隆線ナキ指紋ヲ弓狀紋ト爲スハ甲種蹄狀紋タルト乙種蹄狀紋タルトノ區別アルニアラストノ理由ノ下ニ、甲種蹄狀紋ノ場合モ之ヲ弓狀紋ト爲セルコトアリ、其ノ取扱區々ナリシ

二、一個ノ隆線分岐シ又ハ二個ノ隆線接合シ

テ蹄線ヲ形作ルトキハ之ヲ蹄狀紋ト爲シ

タルコト(解説第十一圖及第十二圖參照)

此種ノ指紋ハ弓狀紋類似ノ蹄狀紋ニ於テ屢々見ル所ニシテ、即チ指紋ノ下部ノ左側若ハ右側ヨリ斜ニ上部ニ走リシ隆線カ、指頭ノ中程ニ至リテ分岐シ、一線ハ引返シテ原ト來リシ方ヘ逆流シ、一線ハ反對ノ側ニ向ヒテ走リ、原ト起リタル側ヘ逆流セサル場合等ニシテ、從來此等ノ場合ニ關シ一定スルモノナシ、從ツテ分類者ノ見解ニ依テ或ハ之ヲ弓

狀紋トシ或ハ之ヲ蹄狀紋ト爲セルナリ、要スルニ斯ル指紋ハ弓狀紋トモ亦蹄狀紋トモ解釋シ得ヘキ共通線アルニ由ル、但シ近來當省指紋部ニ於テハ此種ノ指紋ハ總テ蹄狀紋ト爲スコトニ一定シタリ

甲、外端

三、外角ヲ形作ル部分ニ在ル曲線ニ棒狀線又ハ點ノ附着スルコトアルトキハ接合外端ヲ形作りシモノト看做シタルコト(解説第二十五圖及第二十六圖參照)

外角ヲ形作ル部分ニ在ル曲線ニ棒狀線又ハ點ノ附着シタルモノト二線ノ接合ニ依リ外角ノ外側ノ一角ヲ成シタルモノトハ其ノ形近似セルニ依リ、之カ甄別ハ頗ル困難ナリ、故ニ此場合ハ、假令曲線ニ棒狀線若ハ點ノ附着シタルモノト認メ得ラルルコトアルモ曲線ト之ニ附着

セル棒狀線ト直角ニ等シキ角度ヲ有スルトキ、又ハ曲線ニ附着シタル點カ外角ヲ形作ル外側ノ一角ト相對スルトキハ、總テ外端ヲ形作りシモノト看做スコトニ一定シタリ

四、並行外端ノ基點ニ在ル棒狀線ノ存在ヲ認

メタルコト(解説第三十三圖參照)

從來並行外端ノ基點ニ介在セル棒狀線ハ之無キモノト同一視シ外端ヲ見出スコトニナリ居レリ、然ルニ一面ニ於テハ並行線ニ依テ成ル外端ヲ定ムル方法トシテ二線カ並行ヲ始ムル中間ノ一點ヲ外角ノ一角ト看做シ之ヨリ内ニ向ツテ假想ノ直線ヲ引キ最初ニ觸レタル線又ハ點ヲ以テ其ノ外端ト爲スコトノ定メアリ、即チ介在棒狀線ナルトキハ假令假想直線ニ觸ルルコトアルモ之無キモノト同一視シ其ノ他ノ線又ハ點ナルトキハ其存在ヲ認ムルモノナリ

從來當省指紋部ノ取扱ハ、介在棒狀線ノ存在ヲ認ムルアリ、又ハ之ヲ認メサルアリ、區々ニ流レ一定ヲ缺ケリ、併シ現實存在スル隆線ヲ無視シ外端ヲ定ムルコトハ實際分類スルニ當リ錯誤ヲ招キ易シ、仍テ此際其ノ存在ヲ認ムルコトト爲シ、並行外端ノ基点ニ一個ノ棒狀線介在スルトキハ該介在線ハ内端ニ向ツテ畫キタル直線ニ最初ニ觸レタル線ト看做ス_{コト}ニ改メタリ

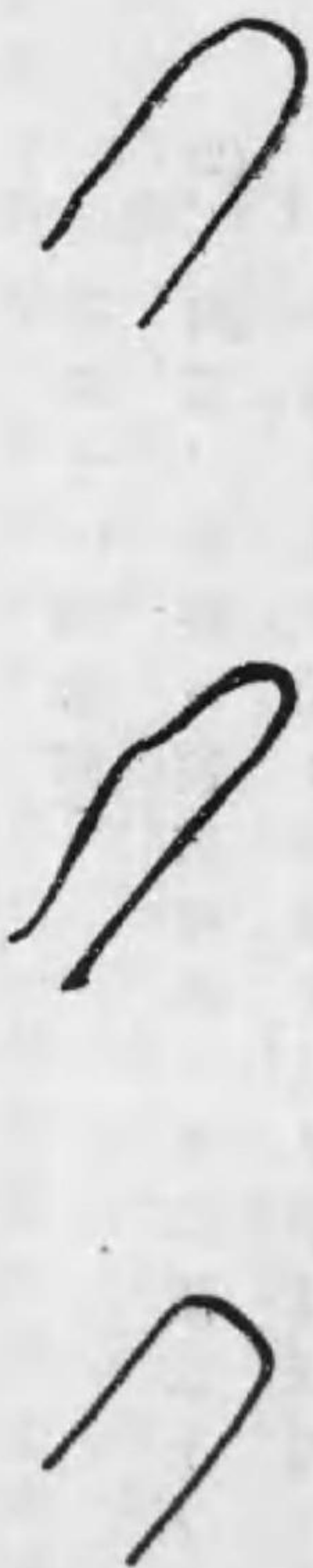
乙、内端

五、内端ト爲スヘキ蹄線ノ肩ヲ限定シタルコ

ト（解説三十六圖及三十七圖参照）

從來中核蹄線内ニ棒狀線ヲ有セサルトキノ内端ハ中核蹄線ノ肩部ニシテ外端ヲ去ルコト最モ遠キ部分ニ當ル一點ト定メラル、然ルニ其ノ中核蹄線ノ肩ヲ指定スルニ付テハ各人一樣ナラス、之隆線ノ形態一

様ナラサルニ基クカ爲ナリ、其ノ内端タルヘキ肩ヲ指定スル點相異ルニ從ツテ線數ニ差異ヲ招ク場合決シテ尠シトセス故ニ内端タルヘキ中核蹄線ノ肩ハ、何人モ動スヘカサル一點ニ限定セサルヘカラス、假令ハ次ニ示ス中核蹄線ニ對シテハ、何レノ點ヲ以テ内端タルヘキ肩ト爲スヘキヤハ其ノ人ニ依リ必シモ一致セサルヘシ



仍テ之ヲ一致センカ爲メ、中核蹄線ノ肩トハ外端ヲ去ルコト最モ遠キ部分ニシテ、中核蹄線ノ頂部内面ニ該蹄線ノ太サト等シキ餘地ヲ存シテ平斷シタル假想線ノ觸ルル點ト定メタリ

六、内部ノ蹄線内ニ二個以上ノ蹄線アル場合

ハ左ノ區別ニ依リ中核蹄線ヲ定ムルコト
ニ改メタルコト

(1) 内部ノ蹄線内ニ二個以上ノ蹄線アルトキハ内部ノ蹄線
ノ頂部ニ最モ近キ蹄線ヲ以テ中核蹄線ト爲スコト(解説
第四十一圖参照)

(2) 内部ノ蹄線ニ頂點相均シキ二個以上ノ蹄線アルトキハ
外端ニ最モ近キ蹄線ヲ以テ中核蹄線ト爲スコト(同第四
十二圖参照)

從來蹄狀紋ノ内部ノ蹄線内ニ二個ノ蹄線ヲ有スル場合ハ、四個ノ棒
狀線ヲ有スル指紋ト同視シ其ノ最モ中央ナル二個ノ線ヲ以テ一ノ中
核蹄線ヲ形作ルモノト看做シ該二線ノ頂點ニ一ノ想像線ヲ畫キ其ノ
新ラシク作ラレタル中核蹄線ノ肩ノ部ニ於テ、外端ヲ去ルコト最モ遠

キ部分ニ當ル一點ヲ以テ内端ト爲スコトノ定メナリシナリ、斯ノ如キ
取扱ハ複雑ナルノミナラス、内部ノ蹄線内ニ在ル二個ノ蹄線ノ頂部カ
相均シカラサル場合ノ内端モ亦此指定方法ニ據ラサルヘカラサル如
ク解セラルルモ、實際ハ其レニ據リ難シ、依テ之カ改正ヲ爲セリ

七、中核蹄線ノ頂部ト外端ト相對スルトキノ

内端ヲ定メタルコト (解説第四十九圖参照)

蹄狀紋ノ内端ハ中核蹄線ノ肩(外端ヲ去ルコト遠キ肩)ナリト雖、中核蹄
線ノ頂部ト外端ト相對スルトキハ一般原則ニ基キ中核蹄線ノ肩ヲ以
テ内端ト指定シ難シ、自然中核蹄線ノ頂點ヲ以テ内端ト定メサルヘカ
ラサルモ、從來之ニ關シ何等ノ定メナカリシ

八、最モ内部ニ在ル蹄線ノ頂點ニ短線若ハ點
ノ附着シタル場合ニ於ケル内端ヲ一定シ

タルコト（解説第四十七圖及第五十一圖第五十二圖参照）

最モ内部ニ在ル蹄線ノ頂點ニ、短線若ハ點ノ附着セルモノト蹄線ノ頂點カ尖頭ヲ爲セルモノトハ外形相近似セル爲メ、其ノ區別明カナラサルモノ多シ、故ニ内部ニ在ル蹄線ノ頂點ニ短線若ハ點ノ附着シタルモノト認メ得ラルル場合ニ於テモ、其ノ短線若ハ點ノ頂點ヲ内端ト爲スコトニ一定シタリ、但シ此場合ニ於テ若シ蹄線内ニ棒狀線ヲ有スルトキハ棒狀内端ヲ定ムル方法ニ依リ、棒狀線ノ頂點ヲ内端ト爲スヘキナリ

九、中核蹄線内ニ在ル棒狀線ヲ内端ト爲スモノト否ラサルモノトヲ明示シタルコト（解

說第六十三圖参照）

從來中核蹄線内ニ棒狀線ヲ有スルトキハ、其ノ棒狀線ノ頂點ヲ以テ

内端ト爲スヘキ定メナリシニ依リ、該棒狀線ノ頂點カ之ヲ包容スルトコロノ中核蹄線ノ頂點ト著シク遠カル場合ト雖モ尙棒狀線ノ頂點ヲ以テ内端トナササルヘカラサル如ク解セラル、即チ中核蹄線内ニ棒狀線ヲ有セサルトキハ、中核蹄線ノ肩ヲ以テ内端ト爲スニ拘ラス、棒狀線ノ頂點ヲ以テ内端ト爲ス場合ハ、之カ長短等ニ關シ制限ヲ設ケサル爲メ實際ノ取扱ハ區々ナリシ



假令ハ上圖ノ如キ場合ハ蹄線ノ肩ヲ以テ内端ト爲スヘキヤ、又ハ蹄線内ニ在ル棒狀線ノ頂點ヲ以テ内端ト爲スヘキヤハ分類者ニ依リ其ノ見解ヲ異ニスルコトアルヘシ、仍テ此場合ニ於ケル取扱ヲ「棒狀線ノ頂點カ中核蹄線ノ頂點内面ヲ去ルコト該棒狀線ノ太サヲ超ユルトキハ棒狀線ナキモノトシ蹄線ノ肩ヲ以テ内端ト爲スコト」ニ定メタリ

一〇、中核蹄線内ニ一個ノ棒狀線アルトキハ

中核蹄線ノ頂點ニ最モ近キ棒狀線ノ頂點ヲ以テ内端ト爲シタルコト(解説第五十三圖參照)

從來内部ノ蹄線内ニ二個ノ棒狀線ヲ有スルトキハ其ノ二個ノ線ヲ以テ一ノ中核蹄線ヲ形作ルモノト看做シ、該蹄線ノ頂點ニ一ノ想像線ヲ畫キ其ノ新ラシク作ラレタル中核蹄線ノ肩ノ部ニ於テ、外端ヲ去ルコト最モ遠キ部分ニ當ル一點ヲ以テ内端ト爲スコトノ定メナリシナリ、即チ二個ノ棒狀線ノ頂點相均シキ場合ハ、其ノ頂點ニ一ノ想像線ヲ畫キ以テ新タニ中核蹄線ヲ作ラシムルコト敢テ難キニアラサルモ、若シ其ノ頂點ニ高低アル場合ハ如何ナル方法ニ依リ想像線ヲ畫キ新タナル中核蹄線ヲ作ルモノナルヤ明カナラサリシナリ、仍テ中核蹄線ノ頂點ニ最モ近キ棒狀線ヲ以テ内端ト爲スコトニ定メタリ

一一、中核蹄線内ニ在ル隆線ノ頂端カ左側若

ハ右側ニ屈曲スルコトアルモ、蹄線ヲ形作ルニ至ラサレハ之ヲ棒狀線ト看做シ、中核蹄線ノ頂點ニ最モ近キ點ヲ以テ内端ト爲シタルコト(解説第五十七圖及第五十八圖參照)

從來中核蹄線内ニ棒狀線ヲ有スルトキハ、其ノ棒狀線ノ頂點ヲ以テ内端ト爲スコトノ定メアリシモ中核蹄線内ニ棒狀線ニアラサル隆線ノ存スル場合ニ付テ判然セサリシニ依リ之ヲ明示シタリ

第三 渦狀紋

一、渦狀紋ノ類別ヲ廢シ單ニ渦狀紋ト爲シタルコト

從來渦狀紋ヲ左ノ五種類ニ區別セリ

1、 狹義ノ渦狀紋 イ 最狹義ノ渦狀紋
ロ 環狀紋

2、 有胎蹄狀紋

3、 二重蹄狀紋

4、 雙胎蹄狀紋

5、 變體紋 イ 混合紋
ロ 純變體紋

以上五種類ノ内狹義ノ渦狀紋ハ比較的單調ナルモ夫レ逆其ノ細別即チ最狹義ノ渦狀紋(一個ノ隆線カ渦狀ヲ爲シテ螺旋狀ニ延ヒタル指紋)ト環狀紋(環狀ヲ爲セル大小ノ圓形カ相重レル指紋)ノ區別ニ至ツテハ判然セサル點尠カラス、例之ハ中央ニ一個若ハ數個ノ環狀線ヲ有シ更ニ渦狀線ヲ繞ラス指紋ノ如キ、又ハ中央ニ渦狀線ヲ有シ更ニ環狀線ヲ繞ラス指紋ノ如キハ最狹義ノ渦狀紋ナリヤ又ハ環狀紋ナリヤ明カ

ナラサルナリ、殊ニ爾餘ノ四種、即チ有胎蹄狀紋、二重蹄狀紋、雙胎蹄狀紋、變體紋ニ至ツテハ複雑ニシテ其ノ區別容易ナラサリシ

其ノ中二重蹄狀紋ト雙胎蹄狀紋トノ區別ニ就テ謂ヘハ、二重蹄狀紋ハ二個ノ蹄線ノ中心ヲ成ス各線カ同一ノ側ニ向ツテ流ルル場合ニシテ之ニ反シ雙胎蹄狀紋ハ二個ノ蹄線ノ中心ヲ成ス各線カ一ハ左側、一ハ右側ト互ニ反對ノ方向ヘ分流スル場合トノ定メナリシ、然ルニ其ノ中心ヲ成ス線カ標準角ニ達セサル前ニ分歧シタルトキ、又ハ其ノ線カ途中ニ於テ切斷シタルトキハ何レノ線ヲ追行スヘキヤ明カナラス、又蹄線ノ中心ヲ定ムルニ當リ、該蹄線内ニ一個又ハ三個ノ隆線アルトキハ其ノ中心ハ直ニ見出シ得ルモ、蹄線内ニ隆線ナキトキ、又ハ二個若ハ四個ノ隆線アルトキハ其ノ何レヲ取ツテ中心ト定メ追行スヘキヤ更ニ判明セサルナリ、即チ二個ノ蹄線ノ中心定マラサル以上ハ、二重蹄狀紋ナリヤ又ハ雙胎蹄狀紋ナリヤ區別スルコト能ハサルナリ

以上ハ唯其ノ一端ヲ示シタルモノナルモ、併シ此等ノ區別ハ指紋法ノ運用上何等其ノ必要ヲ認メス、如何トナレハ此等五種ノ各指紋ハ、之ヲ一括シテ渦狀紋トシテ取扱ハルルモノニシテ、分類上ノ要點ハ、此種指紋カ有スル左右兩端ノ標準角ニアレハナリ

二、追跡線カ分岐シタルトキハ其ノ下方ノ線

ヲ追跡線ト爲シタルコト(解説第八十九圖参照)

從來渦狀紋ノ左側標準角ノ下部ノ一邊ヲ成ス線即チ追跡線カ、二線ニ岐レタルトキハ、其ノ幹線ト認ムヘキモノヲ追跡セサルヘカラサリシナリ

二線カ分岐シタル場合ニ、何レカ幹線ナリヤ又支線ナリヤノ區別ニ就テハ分類者ノ常ニ苦心スル所ナリ、尤モ二線同様ニシテ幹支ノ區別明カナラサルトキハ、下方ニ流ルル線ニ據ラサルヘカラサルモ、線ノ趨

勢傾向ニ依リ岐路ニ迷フ場合尠カラス、從ツテ分類者ノ見解ニ依リ二途ニ出ツルハ免ルヘカラサル事實ナリ、故ニ追跡線カ分岐シタルトキハ、幹支ノ區別ニ據ラス、總テ其ノ下方ノ線ヲ追跡スルコトニ改メタリ

三、追跡線ノ下部ニ接シ新タナル隆線ノ生シ

タルトキ其ノ新タニ生シタル隆線ヲ以テ

追跡線ト爲シタルコト(解説第九十圖参照)

二線カ分岐シタルニアラスシテ追跡線ノ下方ニ接シテ新タナル隆線ノ顯ハルルコトアリ、此場合ハ其ノ新タニ顯ハレタル隆線ヲ以テ追跡線トナスヘキモノニシテ、從來ノ取扱方法ニ依レハ、此場合ハ一線カ分岐シ二線トナリタルニアラサルヲ以テ之ヲ追跡線ト爲ササルモノナリシモ、實際ニ於テ、一線カ分岐シタルモノナリヤ、將タ追跡線ニ接シテ新タナル隆線ノ生シタルモノナリヤ判明セサル場合多シ、又斯ル隆

線ハ、時ノ經過ニ依リ分岐線タリ若ハ接觸ノ新線タルヘク認メ得ラルル場合尠カラス、故ニ假令接觸線ナリト認メ得ラルル場合ニ於テモ、分岐シテ二線トナリタルモノト同様ニ、其ノ下方ニ流ルル隆線ヲ追跡スルコトトセハ、分類容易ニシテ一定スルニ至ルヘキナリ

四、渦狀紋ノ線數計算ヲ爲スニハ追跡線カ右側標準角ニ最モ接近シタル一點ニ向ツテ該標準角若ハ標準角ノ基點ヨリ直線ヲ畫クコトニ爲シタルコト(解説第八十四圖參照)

從來渦狀紋ノ線數計算ヲ爲スニハ、右側標準角若ハ標準角ノ基點ヨリ追跡線ニ向ツテ假想ノ垂直線ヲ畫クヘキ定メナリシモ、所謂垂直線ニ就テハ分類者ノ見解ニ依リ、即チ垂直線ヲ畫ク程度ノ相異ルコトアルハ免ル能ハサル事實ナリ、仍テ追跡線カ右側標準角ニ最モ接近シタ

ル一點ニ向ツテ直線ヲ畫クコトト爲セリ

五、渦狀紋ニ對シ副番號ヲ設ケタルコト(第一編第一章五參照)

指紋原紙ノ増加ニ伴ヒ同一指紋番號ノ増加スルハ當然ニシテ、同一指紋番號ノ夥多ナルハ單リ指紋對照ノ敏活ヲ缺クノミナラス、延イテ指紋法ノ效果ニ影響スルハ免ルヘカラサル事實ナリ、茲ニ於テカ副番號ヲ設ケル必要生ス

指紋原紙ノ排列ハ、先ツ左手ニ付万位別ニ大別シ、更ニ千位別、百位別ニ區別ス、而シテ百位別中其ノ數漸ク増加スルニ從ヒ、十位別一位別ニ細別シ、總テ指紋番號ノ小ナルモノヨリ順次大ナルモノニ及フ
左手ニ於ケル指紋番號同一ナルモノ二枚以上アルトキハ、其ノ中ニ付右手指紋番號ノ小ナルモノヨリ順次大ナルモノニ及ヒ、排列スルコ

ト尙左手ノ場合ト異ルナシ

指紋原紙ノ排列ハ先ツ左手ニ付万位ニ大別スルカ故ニ指紋ヲ分類シ一定ノ價ヲ付スルニハ左手示指即チ万ニ位スルモノニ於テ均衡ヲ保タシムル方法ヲ講セサルヘカラス

今大正十年十二月末日現在當省ニ保管シアル四十二万有餘ノ指紋原紙ニ付左手示指ノ有スル指紋ノ價カ如何ナル狀態ニアルカヲ知ラシカ爲メ之カ調査ヲ爲シタルニ左表ノ通り

左手示指ノ有スル指紋ノ價

(大正十年十二月末日調)

| 種別 | 指紋の價(万位) | 現在原紙 | 百分比 |
|----|----------|--------|------|
| | | | |
| 甲種 | 1 | 二六、五〇五 | 六・二 |
| 乙種 | 2 | 五八、二二一 | 一三・六 |
| | 3 | 三七、三八四 | 八・八 |

| 合計 | 指頭若クハ指頭隆線缺損 | 渦狀紋 | | | 蹄狀紋 | | |
|----|-------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 下流 | 中流 | 上流 | 乙種 | | |
| | 0 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 |
| | 四二七、五六八 | 九、六八一 | 七〇、一八六 | 六四、六〇三 | 五〇、六一四 | 二六、五六八 | 三七、五九六 |
| | 一〇〇・〇 | 二・三 | 一六・四 | 一五・一 | 一一・八 | 六・二 | 一〇・八 |

本表ニ依レハ最モ多キハ下流渦狀紋ニシテ、之ニ亞クハ中流渦狀紋次ハ甲種蹄狀紋、上流渦狀紋、及4ノ價ヲ有スル乙種蹄狀紋ナリ、渦狀紋ハ比較的多クシテ上流、中流、下流ノ三種ヲ合スレハ四三・三%ニ達セリ從來ノ指紋番號ノ外ニ副番號ヲ設クル所以ハ同一指紋番號ヲ更ニ

| 3 | 2 | 1 |
|--------------------------|-------------------------|---------------------------|
| $\frac{33333}{33333}$ 42 | $\frac{22222}{22222}$ 0 | $\frac{11111}{11111}$ 110 |
| $\frac{33334}{33334}$ 47 | $\frac{25666}{24666}$ 8 | $\frac{11331}{11331}$ 40 |
| $\frac{33334}{33335}$ 41 | $\frac{25666}{25669}$ 6 | $\frac{11333}{11333}$ 38 |
| $\frac{33336}{33336}$ 29 | | $\frac{13333}{13333}$ 37 |
| $\frac{33335}{33336}$ 23 | | $\frac{13333}{33333}$ 31 |

| 0 |
|--------------------------------|
| $\frac{00000}{00000}$ 130 枚 |
| $\frac{00000}{77899}$ 4 |
| $\frac{00000}{77397}$ 3 |
| $\frac{00000}{77868}$ 3 |

同一指紋番號ヲ有スル原紙數
 (万位別ニ付最多數ノモノヲ掲ク)

細分セントスルニ外ナラス、前示ノ統計ニ徴スレハ左手示指ニ於ケル同一指紋番號ノ多キモノハ即チ(1)下流渦狀紋、(2)中流渦狀紋、(3)甲種蹄狀紋、(4)上流渦狀紋、(5)4ノ價ヲ有スル乙種蹄狀紋ノ順序ナルモ、其ノ中(2)甲種蹄狀紋ト(5)4ノ價ヲ有スル乙種蹄狀紋ハ、千位(即チ中指)以下ノ指紋ニ於テ變化多ク、實際此二種ハ同一ナル指紋番號ヲ有スルモノ甚タ尠シ、今上記現在原紙四十二万七千五百六十八枚中同一指紋番號ノ最モ多キモノヲ擧クレハ

(備考)
 2万、4万、5万ハ同一ノ指紋番號十枚ニ達スルモノナシ、又參考トシテ万位ノ數ト
 全部同一ナル數ヲ有スル分モ併セ掲ケタリ

| 9 | 8 | 7 |
|---------------------------|---------------------------|--------------------------|
| $\frac{99999}{99999}$ 2 | $\frac{88888}{88888}$ 2 | $\frac{77777}{77777}$ 5 |
| $\frac{98777}{77898}$ 119 | $\frac{87777}{78899}$ 146 | $\frac{77777}{88899}$ 99 |
| $\frac{98777}{78899}$ 113 | $\frac{87777}{78898}$ 113 | $\frac{77777}{78898}$ 89 |
| $\frac{97777}{78898}$ 112 | $\frac{87777}{78889}$ 84 | $\frac{77777}{78899}$ 86 |
| $\frac{97777}{78899}$ 49 | $\frac{87777}{78888}$ 73 | $\frac{77767}{78868}$ 66 |

| 6 | 5 | 4 |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| $\frac{66666}{66666}$ 25 | $\frac{55555}{55555}$ 0 | $\frac{44444}{44444}$ 0 |
| $\frac{66667}{66669}$ 28 | $\frac{56666}{56666}$ 9 | $\frac{44444}{44435}$ 5 |
| $\frac{66767}{66969}$ 23 | $\frac{56767}{66669}$ 5 | $\frac{44444}{44436}$ 4 |
| $\frac{66766}{66866}$ 19 | | |
| $\frac{66777}{66999}$ 15 | | |

同一指紋番號ノ最多ナルハ渦狀紋ナルコト前表ニ示ス所ノ如シ、指頭缺損(0万)中 $\frac{00000}{00000}$ ハ百三十、弓狀紋(1万)中 $\frac{11111}{11111}$ ハ百十ノ多キヲ示スト雖、0万及1万ニ屬スル他ノ指紋番號ハ同一ナルモノ甚タ尠シ、然ルニ渦狀紋ニ至ツテハ上流(7万)、中流(8万)、下流(9万)共稍平均シテ多數ヲ示セリ、之此際渦狀紋ニ對シテノミ副番號ヲ設ケタル次第ナリ

又 $\frac{11111}{11111}$ ノ分ニ對シテハ特ニ副番號ヲ設ケストモ其ノ數漸ク増加スルニ至ツテ普通ノ弓狀紋ト突起シタル弓狀紋トノ二種ニ區別セハ原紙ノ排列上差支ナカルヘシ、 $\frac{00000}{00000}$ ノ分ニ至ツテハ其ノ目的トスル指紋既ニ缺損スルモノナレハ年齢ノ順序ニ依リ排列スルノ外ナカルヘシ

渦狀紋ノ副番號ハ之ヲ線數ニ依リ區別スルハ頗ル複雑ナリ、線數ニ依リ上流、中流、下流ノ三種ニ區別シタル渦狀紋ニ對シ、更ニ線數ニ依リ細別スルカ如キハ良法ト認メ難シ、即チ線數計算ノ際分類者ノ見解ニ

依リ一線二線ノ相異ルコトアルハ免ルヘカラサル事實ニシテ、之カ正確ヲ期セントスルニハ線數ニ依ラス標準角ノ形態ニ依リ之ヲ四種ニ別ツコソ最モ適當ナル區分法ナリト信ス、夫レ標準角ノ接合スルト併行スルトハ何人モ一目瞭然タレハナリ

而シテ渦狀紋中同一指紋番號ノ最多ナル $\frac{87777}{78899}$ 146 ノ左手示指ニ於ケル標準角ノ形態ヲ區別シタルニ、左ニ示スカ如キ結果ヲ得タリ、即チ各數ハ平均ニ分配セララルヲ見ル

| | | |
|------------|-----------------------|-----|
| | 146 | |
| | $\frac{87777}{78899}$ | |
| 標準角ノ形態 | | |
| 左側及ヒ右側共ニ接合 | | 三七 |
| 左側接合右側並行 | | 三六 |
| 左側並行右側接合 | | 三六 |
| 左側及ヒ右側共ニ並行 | | 三七 |
| 計 | | 一四六 |

第四 其他

一、假想直線カ分岐點又ハ接合點若クハ屈曲部ニ觸ルルトキハ之ヲ一線ト看做シ計算スルコトニ爲シタルコト(解説第八圖、第十圖、第十

八圖、第八十九圖參照)

線數ヲ計算スルニ當リ、蹄狀紋ニ在テハ外端ヨリ内端ニ、渦狀紋ニ在テハ右側標準角ヨリ追跡線ニ向ツテ畫キタル假想直線カ、偶々隆線ノ分岐點又ハ接合點若ハ屈曲部ニ觸ルルトキハ、之ヲ一線トシテ計算スヘキヤ、又ハ二線トシテ計算スヘキヤ多少疑ヒノ餘地ナキニアラサルモ評價ノ一定ヲ期スル爲之ヲ一線ト看做スヘキコトヲ明ニシタリ

二、隆線ノ屈曲部ニ在ル尖點ハ二線ノ接合シ

タル線端ト看做シタルコト(解説第二十四圖、第

六十二圖參照)

外端若ハ標準角ノ部分ニ在ル隆線ノ屈曲部カ、錐頭ヲ爲セル場合又ハ蹄線ノ屈曲部カ尖頭ヲ爲セル場合ニ於テハ線ノ内側ヨリ觀ルトキハ弓狀線若ハ蹄線タル形ヲ存スルモ、外側ハ二線カ接合シテ伸ヒタル如キ形ヲ存ス、分類者ニ依リ區々ニ陥リ易キヲ以テ之ヲ一定シタリ

附錄
指紋
例規

指紋原紙取扱規程

(大正六年七月十六日)
(監甲第三六〇號司法大臣訓令)

(本規程中監獄局トアルハ行刑局、監獄トアルハ本規程所、分監トアルハ支所ナリト知ルベシ)

第一條 新ニ入監シタル受刑者アルトキハ其指紋ヲ押捺セシメ別紙第一號様式ノ指紋原紙ヲ作成スヘシ

第二條 指紋ノ押捺ハ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル受刑者ニ付之ヲ爲ス

第三條 指紋ハ特別ノ事由アル場合ノ外入監後直ニ押捺セシムヘシ
疾病其他ノ事故ニ因リ押捺セシムルコト能ハサリシ者カ其事故止ミタルトキ亦同シ

第四條 指紋ノ押捺ヲ要スヘキ者疾病其他ノ事故ニ因リ押捺未済ノ儘出監シタル場合ニ於テハ指紋原紙各欄ニ記入ヲ爲シ表面備考欄ニ押捺不能ノ事由ヲ朱記スヘシ

第五條 指紋原紙ハ一人ニ付三通ヲ作成シ其一通ハ原本トシテ身分帳簿ニ編綴シ他ノ二通ハ正本、副本トシテ司法省監獄局ニ送付ヘスシ

第六條 各監獄及ヒ分監ニ指紋擔當者ヲ置キ指紋ノ押捺、分類其他指紋原紙ノ作成ニ從事セシムヘシ

第七條 指紋原紙ノ正本及ヒ副本ハ刑期三月以上ニ係ル分ハ一箇月分取纏メ別紙第二號様式ノ指紋原紙作成表ヲ添付シ發送スヘシ

刑期三月未滿ニ係ル分ハ其都度發送スヘシ此場合ニ於テハ指紋原紙作成表ノ添付ヲ要セス

第八條 指紋ヲ押捺セシメタル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ指定ノ様式ニ依リ其事項ヲ報告スヘシ

一 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ再ヒ入監シタルトキ又ハ他ノ罪ニ因リ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ判決ヲ受ケ其刑確定シ受刑事項ニ追加アリタルトキ(別紙第三號様式)

二 包藏ノ前科アルコトヲ發見シタルトキ(別紙第四號様式)

三 減刑セラレ又ハ加重刑ノ決定ヲ受ケ其刑確定シ受刑事項ニ異動ヲ生シタルトキ(別紙第五號様式)

四 特赦、假出獄、刑ノ執行停止等ニ因リ刑期終了前出監シタルトキ(別紙第六號様式)

五 假出獄ノ取消、刑ノ執行停止ノ取消等ニ因リ復監シタルトキ(別紙第七號様式)

六 死亡シタルトキ(別紙第八號様式)

七 氏名ヲ訂正シタルトキ(別紙第九號様式)

第九條 前條第一項第一號前段ニ該ル受刑者ノ指紋中前刑身分帳簿ニ編綴シタル原本ノ印象ト對照シ新ナル缺損ノ爲メ指紋ノ分類番號ニ異動ヲ生シタリト認メタルトキハ更ニ指紋原紙三通ヲ作成シ

第五條ノ例ニ依リ取扱ヒ尙指紋原紙表面氏名欄ノ上部ニ㊦ノ記號

印ヲ押捺シ且其事由ヲ表面備考欄ニ朱記スヘシ
指紋ヲ押捺セシメタル者在監中傷害等ニ因リ指頭又ハ隆線缺損シ
指紋ノ分類番號ニ異動ヲ生シタリト認メタルトキ亦同シ

第十條 指紋ノ押捺及受刑追加報告ヲ要スヘキ新受刑者カ拘禁區分
ニ依リ移監スヘキモノナルトキハ其移監ヲ受ケタル監獄ニ於テ指
紋原紙ノ作成發送又ハ受刑追加報告ヲ爲スヘシ但當月分指紋原紙
又ハ受刑追加小票發送迄ニ移監セサル場合ハ新入監獄ニ於テ本條
ノ手續ヲ爲スヘシ

前項但書ニ依リ指紋原紙ノ作成又ハ受刑追加報告ヲ了リタル場合
ニ於テハ其旨移監ヲ受ケヘキ監獄ニ通知スヘシ

第十一條 指紋原紙及ヒ指紋ニ關スル報告ハ分監ノ分ハ直接ニ出張
所ノ分ハ本監ニ於テ取纏メ特ニ定メアル場合ノ外翌月二十日迄ニ
發送スヘシ

第十二條 在監者中氏名詐稱若クハ前科包藏等ノ疑アル爲メ指紋ノ
對照ヲ求メントスルトキハ原紙表面上部ノ欄外ニ「要對照」ト朱記シ
司法省監獄局ニ送付スヘシ此場合ニ於ケル原紙ニハ作成監獄名及
ヒ本人氏名外ノ記事ハ之ヲ省略スルコトヲ得
前項對照済ノ原紙ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ編綴シ
置クヘシ

第十三條 指紋原紙ハ左ノ順序ニ依リ押捺セシムヘシ

- 一 指紋ヲ押捺セシムルニハ先ツ表面上欄左手ノ部ニ始マリ中欄
右手下欄左手右手ノ部ヲ經テ裏面左手示指欄ニ至ルモノトス
- 二 表面上欄左手ノ部、中欄右手ノ部ニ各指定ノ指紋ヲ押捺セシム
ルニハ指端關節ノ屈折部ヲ指紋原紙ノ(折)ノ記號アル黒線ノ直上
ニ當テ指爪面ノ一側ヲ同原紙ニ垂直ニ置キ其他側カ同原紙ノ垂
直ニ至ルマテ回轉セシムヘシ但印象不判明ナルトキハ更ニ上部

ノ餘白ニ押捺セシメ餘白ナキ場合ハ貼紙シテ之ヲ爲サシムヘシ
三 表面下欄左手右手ノ部ニハ拇指ヲ除キ他ノ四指ノ指端ヲ同時
ニ指紋原紙ニ平面ニ押捺セシムヘシ

四 裏面左手示指ノ欄ニハ左手示指ヲ回轉押捺セシムヘシ

第十四條 指紋ヲ押捺セシメタルトキハ直ニ本人ヲシテ指紋原紙ニ
於ケル囚人氏名自署欄ニ其氏名ヲ記入セシムヘシ若シ自署スルコ
ト能ハサルトキハ作成者ニ於テ其事由ヲ記載スヘシ
第十五條 指紋原紙ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

一 指紋ノ分類番號ハ表面上欄中欄各指紋ノ下部左方ニ記入シ尙
乙種蹄狀紋ニ在テハ線數ヲ其右方ニ記入スヘシ但副本ハ正本ニ
依リ其分類番號ヲ寫記シ蹄線數ノ記入ヲ省略スルコトヲ得
二 氏名欄ニハ本人ノ氏名ヲ記入スヘシ若シ其氏名囚人氏名自署
欄ノ氏名ト異ナルトキハ氏名欄ノ下部ニ横行ニ其理由ヲ細字ヲ

以テ記入スヘシ

難解又ハ讀方數箇ニ岐ルル氏名ニハ假名ヲ付スヘシ

三 身分欄ニハ華士族平民ノ區別ヲ記入スヘシ

四 職業欄ニハ逮捕前ノ職業名ヲ記入シ若シ數種アルトキハ其主
ナルモノヨリ順次記入スヘシ

五 綽名其他ノ稱呼欄ニハ本名以外ノ通稱又ハ俗稱ノ全部ヲ記入
スヘシ

六 男女ノ別欄ニハ男又ハ女ト記入スヘシ

七 分類番號欄ニハ記入ヲ要セス

八 原籍欄ニハ廳府縣郡市區町村大字番地ヲ記入スヘシ

九 住所欄ニハ現住地ノ廳府縣郡市區町村大字番地ヲ記入スヘシ

十 出生地欄ニハ廳府縣郡市區町村大字番地ヲ記入スヘシ

航海中又ハ旅行中出生シタル者ナルトキハ其旨及ヒ其届出地ヲ

記入スヘシ

- 十一 生年月日欄ニハ出生ノ年月日ヲ記入スヘシ
- 十二 作成欄ニハ年月日ハ亞刺比亞數字ニテ記入シ官廳名ヲ記シ作成者ニ於テ認印スヘシ
- 十三 表面備考欄ニハ左ノ事項其他指紋ニ關シ參考トナルヘキ事項ヲ横行ニ細字ヲ以テ記載スヘシ
 - イ 指紋ノ缺損不具若クハ負傷疾病其他ノ事由ニ因リ指紋ヲ押捺セシムルコトヲ得ス又ハ是等ノ事由ニ因リ不整ノ印象ヲ生スル場合ニハ其事由
 - ロ 剝皮創癢其他ノ事由ニ因リ印象不鮮明ナル場合ニハ成ルヘク其鮮明ヲ期シ現ニ押捺ノ印象以上ニ明瞭ナラシムルコト能ハサルトキハ其事由
 - ハ 外角缺如セル場合ニハ其事由

十四 裏面受刑事項欄ニハ懲役禁錮及ヒ之ト同質ノ舊刑法ノ刑ニ

該ルモノヲ記入スヘシ

記載ノ順序ハ刑執行ノ順ニ依リ遠キモノヨリ近キモノニ及ホシ

其五箇以上ノ受刑事項アルモノナルトキハ最近五箇ヲ記入スヘシ

十五 受刑事項中二箇以上引續キ執行スヘキ刑ヲ有スル者ナルトキハ各刑ニ付各一欄ヲ用ヒ執行ノ順序ニ依リ之ヲ記載シ尙刑名刑期ノ肩ニ朱書ヲ以テ(1)(2)等ノ符號ヲ付シ且(1)刑ノ出獄ノ事由及ヒ其年月日ノ左傍ニ下欄ノ刑ヲ引續キ執行スヘキコトヲ朱記スヘシ

十六 判決ヲ受ケタル氏名欄ニハ判決書ニ記載シアル氏名ヲ記入スヘシ

十七 罪名欄ニハ併合罪ナルトキハ併合セラレタル各罪名ヲ記入スヘシ

十八 刑名刑期欄ニハ判決ノ刑名刑期ヲ記入シ若シ加重又ハ減刑ニヨリ變更セラレ又ハ未決拘留日數ノ算入セラレタル者ナルトキハ其左傍ニ變更刑期若クハ未決拘留算入日數ヲ朱記スヘシ

十九 言渡裁判所欄ニハ確定シタル判決ヲ言渡シタル裁判所名ヲ記入スヘシ

二十 執行監獄欄ニハ刑ヲ執行シタル監獄名ヲ記入スヘシ但一ノ刑數監獄ニ於テ執行シタル場合ニハ其最後ニ執行シタル監獄名ヲ記入スヘシ

二十一 出獄ノ事由及ヒ其年月日欄ニハ大赦特赦、假出獄、刑ノ終了ノ執行停止、逃走等出獄ノ事由及ヒ出獄ノ年月日ヲ記入スヘシ但現ニ執行中ノ刑ニ付テハ豫メ刑ノ終了ニ因リ出獄スヘキ年月日ヲ記入スヘシ

二十二 特徴欄ニハ痘痕、文身、天黥、創瘻、不具其他指紋其モノニ關セ

サル異徴ヲ記入スヘシ

二十三 備考欄ニハ第十四號記載以外ノ懲役、禁錮及ヒ之ト同質ノ舊刑法ニ該ル前科アル場合ニ於テ其言渡年月日及ヒ罪名ノミ記入スヘシ但記載事項多クシテ指定欄内ニ記入シ能ハサルトキハ指定欄ト同幅ノ掛紙ニ其餘ノ事項ヲ記入スヘシ

第十六條 指紋原紙ノ記事ハ楷書ヲ以テ記入スヘシ

指紋原紙ハ(折)ノ記號アル部分ノ外折ルヘカラス

第十七條 指紋原紙ヲ取纏メ發送セントスルトキハ正本ト副本トヲ各一括トシ成ルヘク之ヲ平面ニ展ヘ其包裝ヲ鄭重ニスヘシ

附 則

第十八條 本規程ハ大正六年八月一日ヨリ施行ス

本規程ト紙觸スル從前ノ訓令、指示、通牒等ハ本規程施行ノ日ヨリ之

ヲ廢止ス

第十九條 本規程第二條ニ該當スルモ從前ノ規定ニ依リ指紋ヲ押捺セサリシ受刑者ニシテ尙在監中ナルトキハ當該者ノ指紋原紙ヲ作成シ其正本及ヒ副本ヲ大正六年八月二十日迄ニ發送スヘシ

第一號様式

(裏面)

| 氏名 | 罪名 | 刑名 | 刑期(金額) | 言渡年月日 | 刑ノ日 | 刑ノ期 | 言渡 | 刑ノ始期 | 言渡所 | 執行所 | 監獄 | 及事由年月日 | 指 |
|-------|------|------|---------------|------------|------------|------|----|------------|------|-----|-----|------------|---|
| 津田甚吉 | 詐欺取財 | 懲役一年 | 未決拘留三十日 入獄 | 明治三九年六月十四日 | 明治三九年六月十四日 | 重懲一年 | | 明治三九年六月十四日 | 大阪地方 | 大阪 | 分監前 | 明治三九年六月十四日 | 指 |
| 津田甚太郎 | 盜 | 懲役三年 | 未決拘留三十日 入獄 | 明治三九年六月十四日 | 明治三九年六月十四日 | 懲役三年 | | 明治三九年六月十四日 | 東京區 | 和 | 集 | 明治三九年六月十四日 | 指 |
| 津田甚太郎 | 盜 | 懲役四年 | 未決拘留三十日 入獄 | 明治三九年六月十四日 | 明治三九年六月十四日 | 懲役四年 | | 明治三九年六月十四日 | 東京區 | 和 | 集 | 明治三九年六月十四日 | 指 |
| 津田甚吉 | 盜 | 懲役五年 | 未決拘留三十日 入獄 | 明治三九年六月十四日 | 明治三九年六月十四日 | 懲役五年 | | 明治三九年六月十四日 | 東京區 | 和 | 集 | 明治三九年六月十四日 | 指 |
| 津田甚吉 | 盜 | 懲役五年 | 未決拘留三十日 入獄 | 明治三九年六月十四日 | 明治三九年六月十四日 | 懲役五年 | | 明治三九年六月十四日 | 東京區 | 和 | 集 | 明治三九年六月十四日 | 指 |
| 津田甚吉 | 盜 | 懲役五年 | 未決拘留三十日 入獄 | 明治三九年六月十四日 | 明治三九年六月十四日 | 懲役五年 | | 明治三九年六月十四日 | 東京區 | 和 | 集 | 明治三九年六月十四日 | 指 |

△印ハ朱記ノ分

第一號樣式

(表

面)

| 氏名 | 身分 | 職業 | 籍名其他ノ稱呼 | 男女ノ別 | 分類番號 |
|-----------------|-------------------|----|-----------------------------|------------|---------------------|
| 津田 甚吉 | 平民 | 大工 | | 男 | — — — — — — — — — — |
| 原 籍 | 大阪府東成郡榎並村大字野江八十番地 | | 出生地 | 原籍地 = 同シ | |
| 住 所 | 東京市麻布區北新門前町十三番地 | | 生年月日 | 明治十三年三月二十日 | |
| (折) | | | | | |
| 1. 示 指 | | | 左 手 | | |
| 2. 中 指 | | | 4. 小 指 | | |
| 3. 環 指 | | | 5. 拇 指 | | |
| 右 手 | | | | | |
| 6. 示 指 | | | 7. 中 指 | | |
| 7. 中 指 | | | 8. 環 指 | | |
| 8. 環 指 | | | 9. 小 指 | | |
| 9. 小 指 | | | 10. 拇 指 | | |
| (折) | | | | | |
| 9 | | | 2 | | |
| 1 | | | 8 | | |
| 5 | | | 14 | | |
| 左 手 | | | | | |
| 右 手 | | | | | |
| 各指紋ノ回轉及ヒ平面印寫ヲ略ス | | | | | |
| (折) | | | | | |
| 大正 6 年 6 月 11 日 | | | 巢鴨監獄ニ於テ作成 ⑩ | | |
| 大正 6 年 6 月 12 日 | | | =於テ分類 ⑪ | | |
| 大正 年 月 日 | | | =於テ検査 | | |
| 備 考 | | | (2)ノ軟損部ハ幼時遊戯ノ際ニ切創ヲ受ケタルモノナリ。 | | |
| | | | (3)ノ外角軟如セルモノ之レ以上印寫スルコト能ハス。 | | |

(裏面)

| 判決 氏名 | 罪名 | 刑期 | (金額) | 言渡 | 年月日 | 刑ノ | 始期 | 言渡 | 所裁 | 執行 | 監獄 | 出獄ノ | 及事由 | 年月日 | 左 | 指示 |
|----------|-------|-------|---------------------|--------|--------|-------|--------|-------|------|-------|-------|-----|-----|--------|---------------------|----|
| 津田甚吉 | 詐欺取財物 | 重懲罰一年 | 重懲罰一年 | 明治九年六月 | 明治九年六月 | 重懲罰一年 | 明治九年六月 | 重懲罰一年 | 大阪地方 | 大阪分監前 | 大阪分監前 | 刑終了 | 同 | 明治九年六月 | 囚人 | 氏名 |
| 津田甚太郎 | 盗物 | 懲役三年 | △未決拘留三十日算入 △減刑三年 | 明治九年六月 | 明治九年六月 | 懲役三年 | 明治九年六月 | 懲役三年 | 東京區 | 橋浦 | 和集 | 同 | 同 | 明治九年六月 | 無筆ニ付自署不能 | 氏名 |
| 津田甚吉 | 盗物 | 懲役四年 | 懲役五年 | 明治九年六月 | 明治九年六月 | 懲役四年 | 明治九年六月 | 懲役五年 | 東京區 | 和集 | 和集 | 同 | 同 | 明治九年六月 | 一、左前膊ニ櫻花ト云ノ文 身アリ | 囚人 |
| 津田甚吉 | 盗物 | 懲役六月 | 懲役六月 | 明治九年六月 | 明治九年六月 | 懲役六月 | 明治九年六月 | 懲役六月 | 東京區 | 和集 | 和集 | 同 | 同 | 明治九年六月 | 一、面部一體ニ痘痕アリ | 氏名 |
| | | | | | | | | | | | | | | | 明治六年二月二五 | 備 |
| | | | | | | | | | | | | | | | 同三年二月二〇 | 考 |

△即ハ朱印ノ分

第二號様式(用紙美濃判)

大正 年 月 日

何 監 獄 (何 監 獄 分 監)

司 法 省 監 獄 局 御 中

指 紋 原 紙 作 成 表

大 正 年 月 分

| | | | | | | | |
|------|------|--------|------|--------|-----|------|-----|
| 本月中新 | 本月ノ新 | 前月未現在 | 押捺未済 | 押捺未済 | 合 計 | 原紙發送 | 短送刑 |
| 三 | 受刑者中 | 押捺未済者中 | 移監者中 | 押捺未済者中 | 三 八 | 今回發送 | 送刑期 |
| (1) | | | | | | 三 三 | 六 |

第三號様式

(票小加追刑受紙原紋指)

| | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------------------|--------|------------|-------------------|-------------------|----------|----|-----------|----------|
| 最近前科 | 刑名 | 期 | 年 | 月 | 氏 | 名 | | | | |
| | 執行 | 監獄 | 監獄(分監) | | | | | | | |
| | 出獄年月日 | | 年 | 月 | 日 | | | | | |
| 分類番號 | No | 出獄年月日 | 執行監獄 | 言渡裁判所 | 刑ノ始期 | 言渡年月日 | 刑名刑期(金額) | 罪名 | 判決ヲ受ケタル氏名 | 何監獄(何分監) |
| 指示手左 | | 大正 年 月 日 | 監獄(分監) | 裁判所 控訴院 | 大正 年 月 日 | 大正 年 月 日 | 年 月 | | | (何分監) |

小票第 號 原紙記入 何監獄(何分監) (省印)

- 一 短期刑者ノ原紙ヲ特ニ發送スル場合ニハ本表ノ添付ヲ要セス該原紙ニ何人分發送スル旨付箋スルカ若クハ葉書ヲ以テ其旨通報シ置キ當月分ノ原紙ヲ取纏メ發送スル際其數ヲ本表ニ合算スヘシ
- 二 再度押捺者中ニハ改寫ノ數ヲ包マス
- 三 指紋原紙發送若クハ受刑追加報告後他ノ罪ニ因リ判決ヲ受ケ其刑確定シタルモノアルトキハ受刑追加人員ノ欄ニ其數ヲ朱記スヘシ
- 四 新受刑總員中ニハ死刑及ヒ拘留ヲ含マス

- 一 小票番號ハ曆年ニ依リ更改スヘシ
- 二 原紙記入ノ目ハ司法省監獄局保管ノ原紙ニ記入ノ際要スルモノナリ
- 三 本人ノ氏名カ最近前科ノ氏名ト異ナル場合ハ前科何々事何某ト記入スヘシ
- 四 分類番號欄ニハ全部ノ指紋分類番號ヲ記入スヘシ
- 五 左手示指欄ニハ左手ノ示指ヲ回轉押捺スヘシ
- 六 假出獄ノ取消刑ノ執行停止ノ取消等ニ因リ復監シタル場合ニ其復監シタル原刑ノ前後ニ於テ新ナル刑ヲ執行セラルルトキニハ原刑ト新ニ執行スル刑トヲ併記シ兩者ノ關係ヲ小票ノ裏面ニ明記スヘシ
- 七 二刑以上引續キ執行スル場合ニハ同一小票相當欄ニ(1)(2)等ノ符號ヲ付スヘシ其他小票ノ記事ハ指紋原紙ノ記載例ヲ準用ス

- 八 参考トナルヘキ事項アラハ小票ノ裏面ニ記載シ表面欄外ニ裏面参照ト朱記スヘシ
- 九 小票ヲ發送スルニハ小票ト同幅ノ表紙ヲ添ヘ表紙ニハ何月分小票何枚ナルコト及ヒ監獄名ヲ記シ小票ノ肩ニ設ケアル小穴ヲ透シテ括ルヘシ

第五號様式(用紙美濃野紙)

△印ハ朱記ノ分

大正 年 月 日

何 監 獄(何監獄何分監)

司法省監獄局御中

指紋押捺者受刑事項異動報告

大正 年 月分

| 原 番 號 | 原 氏 名 | 紙 作 成 監 獄 | 罪 名 | 原 刑 言 渡 | 原 刑 | 變 更 刑 由 及 其 刑 期 | 變 更 刑 出 獄 年 月 日 | 備 考 |
|-------------|-------------|-----------------------|--------|------------------|--------|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 38601 | 阿部子之吉 | 宮 | 詐欺 | 大正四、三、一〇 | 懲役四年 | 減刑 懲役三年 | 大正七、三、一六 | 大正 年 月 日減刑 (又ハ大正何年何月何日減刑) |
| 57686 | 中島銀藏 | 巢 | 窃盜 | 大正六、二、一五 | 同 六月 | 加重 懲役二年 | 同 八、二、三 | 累犯發見大正六、六、三〇某裁 判所ニ於テ加重刑決定 |
| 23442 | 高田利吉 | 京 | 同 | 大正五、八、三 | 同 一年 | 更ニ加重 懲役八月 | 同 七、四、九 | 同 上 △加重刑始期大正六、八、九 |

- 一 記載ノ順序ハ變更事由ノ種類毎ニ逐次記入スヘシ
- 二 累犯加重ノ場合ニ於テ原刑ヲ變更セラシムルコトナク更ニ加重セラレ原刑ニ引續キ執行スルト
キハ加重刑ノ始期ヲ備考欄ニ朱記スヘシ

第六號様式(用紙美濃野紙)

大正 年 月 日

何 監 獄(何監獄何分監)

司法省監獄局御中

指紋押捺者刑期終了前出監報告

大正 年 月分

| 原 番 號 | 原 氏 名 | 紙 作 成 監 獄 | 罪 名 | 刑 名 刑 間 | 刑 ノ 終 了 ニ ヨ リ 出 獄 ス ヘ キ 年 月 日 | 出 獄 事 由 | 出 獄 年 月 日 |
|-------------|-------------|-----------------------|--------|------------------|---|------------------|-----------------------|
| 43386 | 高田くに | 前橋 | 殺人 | 懲役六年 | 大正七、一、二五 | 特 赦 | 大正六、四、一五 |
| 15460 | 大島國一 | 浦和 | 放火 | 同 五年 | 同 六、一、二、三 | 假出獄 | 同 六、四、二 |
| 59321 | 石塚庄作 | 水戸 | 文書偽造 | 同 三年 | 同 六、一、一、五 | 同 | 同 六、四、一五 |
| 74362 | 宮下磯太郎 | 東京 | 詐欺 | 同 三年 | 同 七、三、三 | 刑ノ執行 停止 | 同 六、四、二〇 |

- 一 記載ノ順序ハ出獄事由ノ種類毎ニ逐次記入スヘシ

第七號様式(用紙美濃罫紙)

| 大正 年 月 日 | | 何 監 獄(何監獄何分監) | | | | | | |
|-----------|-------|---------------|-------------------------|-----------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 司法省監獄局御中 | | | | | | | | |
| 指紋押捺者復監報告 | | 大正 年 月分 | | | | | | |
| 原 紙 番 號 | 氏 名 | 作 成 監 獄 罪 名 | 刑 名 出 獄 ノ 事 由 及 復 出 事 由 | 復 監 ノ 刑 期 | 復 監 年 月 日 | 復 監 刑 期 始 期 | 復 監 刑 期 終 期 | 出 獄 年 月 日 |
| 45712 | 川岸萬吉集 | 鴨放火 | 懲役 大正五年五月二二 | 假出獄 | 大正六年六月二日 | 大正六年六月二日 | 大正六年六月二日 | 大正六年六月二日 |
| 77652 | 桑原徳次 | 豊多摩殺人 | 同 刑執行停止 | 取消 | 大正六年六月二日 | 同 | 同 | 同 |
| 27982 | 八木寛太郎 | 鴨窃盗 | 同 刑執行停止 | 取消 | 大正六年六月二日 | 同 | 同 | 同 |
| 98712 | 八木寛太郎 | 鴨窃盗 | 同 刑執行停止 | 取消 | 大正六年六月二日 | 同 | 同 | 同 |
| 98794 | 八木寛太郎 | 鴨窃盗 | 同 刑執行停止 | 取消 | 大正六年六月二日 | 同 | 同 | 同 |
| 35501 | 八木寛太郎 | 鴨窃盗 | 同 刑執行停止 | 取消 | 大正六年六月二日 | 同 | 同 | 同 |

第八號様式(用紙美濃罫紙)

| 大正 年 月 日 | | 何 監 獄(何監獄何分監) | | | | | | |
|-----------|-------|---------------|-------------------------|-----------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 司法省監獄局御中 | | | | | | | | |
| 指紋押捺者死亡報告 | | 大正 年 月分 | | | | | | |
| 原 紙 番 號 | 氏 名 | 作 成 監 獄 罪 名 | 刑 名 出 獄 ノ 事 由 及 復 出 事 由 | 復 監 ノ 刑 期 | 復 監 年 月 日 | 復 監 刑 期 始 期 | 復 監 刑 期 終 期 | 出 獄 年 月 日 |
| 93124 | 加藤政吉 | 同 窃 盗 | 懲役二年 | 大正六年六月二日 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 52345 | 五十嵐龍吉 | 小 菅 同 | 同十二年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 66452 | 田村金太郎 | 宇都宮横 領 同 | 同一年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 04771 | 矢部龜藏 | 前 橋 詐 欺 同 | 同三年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 38384 | 矢部龜藏 | 前 橋 詐 欺 同 | 同三年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 99432 | 矢部龜藏 | 前 橋 詐 欺 同 | 同三年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 13351 | 矢部龜藏 | 前 橋 詐 欺 同 | 同三年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 11340 | 矢部龜藏 | 前 橋 詐 欺 同 | 同三年 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |

一 本人力在監中ナルト否トニ拘ハラス死亡又ハ死亡ノ確證ヲ得タルトキハ其事實ヲ報告スヘシ

第九號様式(用紙美濃罫紙)

| | | | |
|--|-------|---------------|------------|
| 大正 年 月 日 | | 何 監 獄(何監獄何分監) | |
| 司法省監獄局御中 | | 指紋原紙氏名訂正報告 | |
| 原 | 紙 | 本 | 訂正事由 |
| 番 號 | 氏 名 | 罪 名 | 刑 名 |
| 43245 | 宇野俊三郎 | 鴨窃盜懲役二年 | 大正 六、四、三 |
| 45227 | 工藤留吉 | 同 | 六月同 六、五、二八 |
| 98310 | 石塚藤吉 | 同 | 同一年同 六、六、七 |
| 97201 | 石塚藤吉 | 同 | 同一年同 六、六、七 |
| 11365 | 石塚藤吉 | 同 | 同一年同 六、六、七 |
| 12555 | 石塚藤吉 | 同 | 同一年同 六、六、七 |
| 一 偽名発見等ノ場合ニ原籍又ハ生年月日ニ異動ヲ來シタルトキハ本名ノ欄ニ原籍又ハ生年月日ヲモ記載スヘシ | | | |

指紋原紙ノ取扱改正要旨

(舊規定ニ比シ異レル要點)

指紋原紙取扱規程ハ大正六年七月十六日監甲第三六〇號訓令ヲ以テ發布セラレ既ニ同年八月一日ヨリ實行サレツツアルノテアル、此際新舊規定ヲ比照シ其相違セルト認メタル部分ヲ舉ケ實務家各位ノ參考ニ供シタイト思フ、茲ニ斷ツテ置キタイノハ、餘リ微細ナ點マテ比較シ之ヲ舉示スルコトハ寧ロ煩雜ニ失スル嫌アルヲ以テ省略シタコトデアリマス。

一 押捺ヲ要スヘキ者ノ範圍擴張

指紋ヲ押捺セシムヘキ受刑者ハ從來懲役刑中ノ或ル罪ニ限定セラレアリシカ、改正規程ニ於テハ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ罪ノ

如何ニ關セス全部押捺セシムルコトニ擴張セラレタリ、元來犯罪人ノ異同識別ニ關スル事項ヲ司法省殊ニ監獄局ニ於テ之ヲ掌ル所以ハ、主トシテ在監者(受刑者タルト刑事被告人タルコトヲ問ハス)カ包藏セル前科ヲ發見シ累犯關係ヲ有スルモノハ之ヲ訴追シ若シ累犯關係ナキ者ト雖モ科刑上又ハ監獄處遇上純然タル初犯者ト同一ニ律スルコトノ出來ナイノハ言フマテモナイノテアツテ、加之前科ヲ包藏スルカ如キ奸惡手段ニ對シテハ之ヲ暴露シ飽迄國法ノ威力ヲ感受セシメネハナラスノテアル、然ルニ從來裁判確定後ト雖モ前科ノ發見ト同時ニ累犯加重セラルヘキ懲役刑テアリナカラ罪ノ種類ニ依リ指紋ヲ押捺セス之ヲ除外シタルコトハ指紋法施行ノ趣旨ニ對シ不徹底ノ點カアルト思ハル、併シナカラ之レモ費用ト手數トヲ顧慮シナケレハナラヌ、指紋原紙ノ増加スルニ從ツテ取扱上繁雜ヲ招ク譯テアルカラ結局多クノ手數ト費用ヲ要セシ丈ケ夫レ丈ケ效果ヲ收メ得ルヤ否ヤト云フノ

カ問題テアル、是等ノ點ヨリシテ比較的再犯ノ虞ナキ或種ノ罪質ニ付除外サレタノテハアルマイカ。

然レトモ懲役刑中或罪ニ對シテハ指紋ヲ押捺シ或罪ニ對シテハ之ヲ押捺シナイカ爲メ各監獄當事者ハ新受刑者ニ指紋ヲ押捺セシムルニ當リ、先ツ指紋ノ押捺ヲ要スヘキ罪質ニ該當スルヤ否ヤヲ一々調査シナケレハナラヌ手數アリシモ、改正規程ノ如ク新受刑者ノ全部ニ對シ押捺セシムルトセハ是等ノ煩ヒモナク、又其數モ左程ノ増加ニアラスシテ、而カモ指紋法施行ノ趣旨モ貫徹シ得ル譯合カラシテ其範圍ヲ擴張サレタノテアルト推察スル。

又禁錮刑ハ累犯加重ノ關係ナキニ拘ラス、之レニモ指紋ヲ押捺セシムルコトニ定メラレタノハ、禁錮刑ノ前科ヲ有スル懲役囚、又ハ懲役刑ノ前科ヲ有スル禁錮囚ト雖モ前科ハ矢張前科タルニ相違ナキヲ以テ之カ包藏ヲ許ササルハ勿論、監獄ノ處遇上若クハ刑ノ量定上決シテ閑

却スヘカラサル問題テアルカラテアル、而シテ指紋押捺者ノ範圍カ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ノ全部ニ擴張セラレタル結果トシテ從來ヨリ如何程指紋原紙ノ作成ヲ要スヘキモノカ増加スルヤト云フニ大正四年ノ監獄統計年報ニ就テ調査シテ見ルニ懲役囚ニ於テ千八百二十八人、禁錮囚ニ於テ四百五十七人、合計二千二百八十五人増加スル譯テアツテ、之ヲ一監獄ニ割當ツレハ一ケ年僅ニ四五十枚テ、夫レトテ一旦押捺セシメタル者ハ追加報告ニテ足レルノテアルカラ實際指紋原紙ノ作成ヲ要スルノハ一監獄一ケ年三十枚内外ニ過キヌト思フ。

二 受刑事項追加小票

指紋押捺者カ再ヒ入監シタル場合ハ更ニ指紋原紙ヲ作成シ再度押捺トシテ該原紙ハ初度押捺ノモノト區別ノ上進達セシメ、當指紋部ニ於テハ再度指紋原紙ハ、氏名小票ニ依リ指紋番號ヲ照合シ、指紋函ニ排

列シアル先ノ原紙ト挿シ替ヘツ、アリシモ、斯ク入監ノ都度新ニ指紋原紙ヲ作成シ先ノ原紙ヲ取除キ廢棄スルカ如キハ、尠カラサル手數ト費用トヲ要スル譯合ナルヲ以テ、大正元年十一月之ヲ改正シ會テ指紋ヲ押捺セシメタルモノカ再ヒ入監シタル場合ハ、曩ニ押捺セル原本ノ指紋印象ト對照シ指頭隆線ニ新ナル缺損ヲ生セサルトキハ新ニ原紙ヲ作成セシテ受刑事項ノ追加報告ヲ爲サシムルコトニセラレタ、之レカ爲メ新受刑者ノ内年々一萬六七千人ハ原紙ノ作成ヲ省キ得タルモノニシテ、當指紋部ニ於テハ該追加報告ニ基キ、先ノ原紙ニ新ナル受刑事項ヲ漸次記入シ來リシモノナリ、而シテ其追加報告タルヤ列記法ニ據リシモノナレハ一葉ノ罫紙ニ二十餘名モ記入シアル複雑ナル報告書ト氏名ヲ對照シナカラ直ニ原紙ニ記載スルハ頗ル危険ニシテ果シテ其報告書ニ記載シアル某ナル者カ氏名票ニ依リ索出セラレタル同一氏名ノ某ナルモノニ該當スルヤ否ヤ判斷ニ苦ム場合甚タ多ク、其

後は等ノ欠缺ヲ補フ爲メ指紋ニ關スル報告ニハ當該本人ノ指紋番號ヲ記載セシムルコトニ改メラレタルモ之レトテ同一氏名ノモノニシテ酷似セル指紋番號ヲ有スルアリ、現ニ最近ニ於テモ高橋長太郎ナルモノヲ索出セントシタルニ同一氏名ノモノ十一名ニ達シ其内近邇セル分類番號モアレハ其孰レカ搜索ノ本人ナルヤ躊躇シタリ、又一概ニ分類番號ノミニ依リ識別シ得サルコトアリ、即チ監獄ニ於テ付シタル分類番號ハ當指紋部ニ保管シアル同一人ノ夫レト必スシモ一致セス之レ各監獄ニ於テ付シタル指紋ノ價ハ指紋部ニ於テ検査シタル結果訂正ヲ加フルモノ尠カラサルヲ以テナリ、若シ夫レ確實ナル方法ニ據ラスシテ誤テ他人ノ前科ヲ記入シ夫レカ爲メ刑ノ量定ニ影響シタル事實アリトセンカ由々敷問題ヲ惹起スルニ至ルヘシ、去レハ今回受刑者事項追加報告ヲ小票式ニ改メラレ各本人ノ指紋一個ヲ徴シ且ツ最近前科出獄年月日ヲモ報告セシムルコトニセラレタルハ正ニ個人識

別ノ方法トシテ確實ナルモノニシテ之レカ爲メ、再入監者全部ニ對シ原紙ヲ作成セシメタル時代ノ如キ手數ト費用ヲ要セスシテ而カモ小票ニ押捺シアル一個ノ指紋ニ依リ的確ニ識別ノ實ヲ擧ケ得ルノミナラス、更ニ最近前科欄ノ記事ニヨリ遠キ前科ヲ自白シテ其最近ノモノヲ包藏シ、以テ累犯加重ノ適用ヲ免レント試ムル奸黠手段ヲモ直ニ暴露シ得ルコト、信セラル、ノテアリマス。

三 押捺未濟出監者原紙

指紋押捺ヲ要スヘキ者カ、押捺未濟ノ儘出監シタル場合ニ於テモ指紋原紙ノ作成ヲ要スルコト、ナリタリ是レハ癩患者ニ多ク見ル所ニシテ其他受刑當時ヨリ病氣ニ罹リ押捺スルコト能ハサリシ者カ刑ノ執行停止又ハ痊癒ニ至ラスシテ刑期終了釋放シタル場合等ニ起ル事柄ニシテ、此場合ニ於テハ指紋原紙ノ各欄ニ記入ヲ爲シ表面備考欄ニ

押捺不能ノ理由ヲ朱記スルヲ要ス、何故ニ斯ルモノニ對シ原紙ノ作成ヲ要スルヤ、換言スレハ指紋ノ印象ニ依リ異同ヲ識別スルコト指紋法本來ノ目的ナルニ指紋ヲ押捺スルコト能ハサリシ者ノ指紋原紙ノ必要點那邊ニアルヤト云フニ、當指紋部ニ於テ指紋原紙ヲ索出スルニ二種ノ方法ヲ採リ、即チ指紋ノ番號ニ依リ分類スルト同時ニ、一面亦原紙記載ノ氏名ニ依テ區別シアルカラ、當該者ノ指紋原紙ヲ索出セントスルニハ先ツ氏名別ニ依リ調査シ、其發見シ得タル氏名票ニ基キ、更ニ指紋番號ヲ繰リ出シ對照スルノテアル、但シ該當スヘキ氏名ナキトキハ直ニ指紋番號ヲ根據トシ索出スルコト云フ迄モナイ、斯ノ如キ順序ニ依リ原紙ヲ引出スモノナルカ故ニ、若シ本人カ僞名セサル以上ハ假令指紋ノ印象ナシト雖モ氏名票ニ依テ當該本人ノ原紙ヲ發見シ得レハ從テ其前科モ容易ニ知悉シ得ラル、譯テアリマス、

四 各分監指紋擔當者

分監ニ於テ作成スル指紋原紙ハ、本監ニ於テ調査ノ必要ナシト認めタル所ニ在テハ、分監ヨリ直接本省ニ送付方差支ナキ旨、大正三年三月監獄局長ヨリ通牒ヲ發セラレ、爾來直接送付ノ向アルモ、今尙本監ニ於テ取纏メ送付セラル、モノ多數ニシテ、直接發送セラル、ハ、五十五ノ分監中僅ニ二十ニ過キナイ、曩ノ通牒ニアル如ク分監ニ於テ作成シタル原紙ヲ本監ヲ經由セシムルハ、分監作成ノ原紙ハ指紋ノ印象分類及ヒ記事等、概シテ本監ニ比シ粗雜ノモノ多ク、之カ完備ヲ期スル監督上ノ必要ヨリ出タルモノトセハ、右通牒後既ニ三歳ヲ經タル今日尙各分監ニ指紋法ノ習熟者ナシト云フコトハ出來ナイ、既ニ各分監共指紋ヲ押捺セシメ各欄記入シツ、アルモノナレハ分類ノ如キハ敢テ難キニアラサルコト、思フ、無制限ニ本監擔當者ニ依頼シ以テ其責ヲ盡シタ

ハ、スルハ該通牒ノ趣旨ニ副ハナイモノト言ハネハナラヌ、之カ完備ヲ期スルト否トハ全ク當事者ノ注意如何ニ存スルノテ、是等ノ事情ヨリシテ改正ノ規程ニ於テハ各分監ニモ指紋擔當者ヲ設ケ本監同様に指紋ノ押捺分類其他原紙ノ作成ニ從事セシメ、又其發送ニ際シテ本監ヲ經由セス直接本省へ送付セシムルコトニ定メラレタノテアルト思フ而シテ出張所ノ分ハ總テ本監ニ於テ取纏メ發送又ハ報告セシムルコトニセラレタルハ、出張所ハ主トシテ刑事被告人ヲ拘禁シ多クハ刑ノ言渡確定ト共ニ本監ニ移送スルモノナレハ是等ニ對シテハ寧ろ本監ニ移送後指紋ヲ押捺セシムル方便宜ナルノミナラス、僅少ナル原紙ヲ整理シ直接本省へ送付スルハ彼我ノ煩雜ヲ招キ取扱上不便ナルヲ以テ、本監ニ於テ取纏メシムルコトニ定メラレタルモノト推察スルノテアリマス。

五 發送期日

指紋原紙ハ一ヶ月分取纏メ入監ノ翌月中ニ送付スヘキ規定ナリシヲ改正規定ニ於テハ、特ニ定アル場合ノ外翌月二十日迄ニ發送スヘキコトニ改メラル、所謂特定ノ場合トハ刑期三月未滿ニ係ル分ハ其都度發送ヲ要スル點ヲ指シタルモノナルヘシ、茲ニ注意ヲ要スヘキハ、從來拘禁區分ニ因ル移監者ノ指紋原紙又ハ追加報告ハ移監ヲ受ケタル監獄ニ於テ爲サ、ルヘカラサリシヲ第十條ニ於テ當月分ノ指紋原紙又ハ受刑追加小票發送迄ニ移監シタルモノト否トニ依リ區別ヲ設ケラレタルコト之ナリ若シ従前ノ如ク無制限ニ移監ヲ受ケタル監獄ニ於テ指紋原紙ノ作成又ハ受刑事項追加報告ヲ爲スモノナリトセハ、受刑者ヲ取纏メ特設監ニ移送スル場合若クハ都合ニ依リ一時移監ヲ見合セ數月ノ後移監スル場合ノ如キハ其間當該者ニ對スル指紋事務ハ終

焉ヲ告ケス爲メニ指紋法ノ效果ニ影響ヲ措クコトナキヲ保シ難イノ
テアル又第十條第二項ニ於テ前項但書ニ依リ指紋原紙ノ作成又ハ受
刑追加報告ヲ了シタル場合ニ於テハ其旨移監ヲ受クヘキ監獄ニ通知
スヘシトアルハ原紙及ヒ追加小票發送迄ニハ移監セサリシモ將來移
監ヲ要スルモノトシテ當該者ノ原紙又ハ追加小票發送ト同時ニ其旨
先方監獄ヘ通知スルニアラスシテ移監ノ際ニ其旨引繼ヲ爲シ以テ原
紙ノ作成又ハ追加報告ノ脱漏重複ヲ避クルノテアルト思フ又通知ノ
方法ハ當該者ノ身分帳簿ニ原紙作成済又ハ追加報告済ナルコトヲ付
箋スルカ又ハ手續終了者ノ氏名ヲ舉ケ之ヲ引繼クモ可ナルヘク要ハ
成ルヘク簡略ナル方法ニ依ルヲ便ナリト信スルノデアリマス。

六 臨時出監及ヒ復監報告

恩赦ニ因リ指紋押捺者ノ受刑事項ニ異動ヲ生シタルトキハ大正元

年十月監甲第一六八號通牒ニ依リ報告セサルヘカラサリシモ假出獄
刑ノ執行停止又ハ逃走等ニ因リ刑期終了前出監シタルトキ又ハ是等
ノ者カ其取消又ハ逮捕等ニ因リ復監シタルトキノ報告方ニ就テハ別
段ノ規定ナカリシ故ニ指紋原紙ノ記事ニ依レハ尙在監中ト認メラル
ハニ拘ハラス他ヨリ對照ヲ求メ來リシコトアリ怪ミ調査スレハ假出
獄又ハ刑ノ執行停止等ニ因リ刑期終了前出監シタルモノナルコト判
明スル事實往々之レアリ殊ニ逃走者ノ如キハ其事實ヲ指紋原紙ニ明
記シ置ケハ全國何レノ方面ヨリ指紋ノ對照ヲ求メ來リテモ直ニ其逃
走者タルコトヲ發見シ得ヘシ既ニ指紋對照ニ依リ逃走者タルコトヲ
發見シタル事實モアレハ異動ノ都度其旨記入シ置クコトハ最モ必要
ナルコト、思ハル而シテ改正規程ハ第八條第四號五號ニ於テ刑期終
了前ノ出獄者ハ總テ報告セシムルコトニ定メラレタルニ依リ今後ハ
當該者ノ指紋原紙ニ依リ直ニ在監有無ヲ知り得ルニ至ルヘキナリ然

レトモ從來トテ少シク注意ヲ拂ハレタル監獄ニ於テハ、縦令明文ノ定ムルモノナシト雖モ指紋ノ運用上ニ想ヒテ及ホサレ、受刑事項ノ異動トシテ如上ノ事實ヲ詳細報告サレツ、アリシナリ、是等ノ事項ニ就テハ一定シタル様式ニ依リ報告スルコト、ナリシカ爲メ、從前ヨリ却テ簡捷ヲ期シ得ラル、コト、思ハル、ノテアル、

七 再度押捺ヲ要スヘキ指紋

從前ノ規定ニ依レハ、新受刑者ニシテ曩ニ指紋ヲ押捺セシメタル者ナルトキハ、其指紋ヲ精査シ前刑身分帳簿ニ編綴シアル原本ノ印象ト對照シ、若シ其指頭又ハ隆線ニ新ナル缺損アルヲ認メタルトキハ新押捺者ノ例ニ倣ヒ更ニ三通ヲ作成セサルヘカラサルモノナリシニ、改正規程ニ於ケル此場合ノ取扱ハ、先ニ作成シタル原本ノ印象ト對照シ、新ナル缺損ノ爲メ、指紋分類番號ニ異動ヲ生シタリト認メタルトキニ限

リ、再度押捺ヲ爲シ原紙ヲ作成送付ヲ要スルコトニ定メラレタリ、元來指紋法ノ效用ハ指紋分類如何ニ依テ支配セラル、コト多キヲ以テ、之ヲ分類ニ際シテハ機微ノ點ニマテ注意ヲ拂ハサルヘカラス、然レトモ各人ノ指紋カ絶対不變ト定マル以上ハ、負傷等ノ爲メ一指若クハ數指ノ指頭隆線ニ缺損ヲ生シタリトスルモ、分類番號ニ異動ヲ生セサル限リハ原紙ノ索出上何等支障ヲ招クナク、又先ノ印象ト對照セハ同一人ナリヤ否ヤハ確實ニ識別シ得ルハ云フマテモナキコトナリ、然レトモ若シ隆線缺損ノ爲メ指紋ノ分類番號ニ異動ヲ生スルコトアラシカ、指紋原紙ノ索出又ハ排列上關係ヲ及ホス所アルヲ以テ、此場合ニ限り報告ヲ爲サシムルコトニ改メラレタノテアルト思フ、又改正規程ニ於テ新ニ設ケラレタノハ、在監中傷害等ニ因リ指頭又ハ隆線ニ缺損ヲ生シ指紋分類番號ニ異動ヲ生シタリト認メタルトキニ於テモ前示ノ如ク再度押捺ヲ要スルコト之ナリ、是等モ亦指紋法ノ完成ヲ期スル上ニ必

要ナル事柄ト信スルノテアリマス。

八 受刑事項欄ニ於ケル出獄日

指紋原紙ノ裏面ニ於ケル受刑事項ノ部ニ出獄ノ事由及ヒ其年月日ノ一欄アリ、此處ニ記載スヘキ年月日ハ、原紙作成當時既ニ出獄シタル刑ニ對シテハ實際出獄シタル日ヲ記載スヘキコト勿論ナルモ、舊記載例第二十五號但書ニ現ニ執行中ノ刑ニ付テハ豫メ其終期ヲ記載スヘシトアルヲ以テ、項目ニハ出獄年月日トアルニ拘ラス、出獄ノ前日タル刑ノ終了日ヲ記載シ來リシモノニシテ、原紙作成前ノ刑ト作成後ノ刑トハ孰レモ刑ノ終了ニ依リ出獄スルモノナルモ一日ノ差異ヲ生シ居ツタノテアル、而シテ改正規程ニ於テハ第十五條二十一號ニ於テ、豫メ刑期終了ニ因リ出獄スヘキ年月日云々ト定メラレアレハ今後ハ統一セラル、コト、ナルノテアリマス。

九 其他ノ改正

徒ラニ詳細ナル部分マテ舉示スルコトハ寧ロ煩雜ニ互ル嫌アルモ尙心付キタル點ヲ云フナラハ、氏名欄ニハ本人自稱ノ氏名ヲ記入スヘシトアリシヲ本人ノ氏名ヲ記入スヘシト改メラレタルコト、即チ本人自稱ノ氏名トスレハ實名ニ關セス本人申立ノ氏名ヲ記入セサルヲ得サリシモ、今後ハ戶籍簿ニ登録セラレタル本人ノ實名ノ記入ヲ要スルコト、又作成欄ニハ作成者ニ於テ署名、認印孰レニ據ルモ可ナリシカ之ヲ認印スルコトニ一定セラレタルコト、又受刑事項記載ノ順序ハ裁判言渡年月日ノ順ニ依リシヲ刑執行順ニ改メラレタルコト、又其記載方ニ付テ裁判所名ヲ何々地方又ハ何々區トシ年月日ハ總テ「コンマ」ヲ用ヒ記載ノ文字ヲ省略セシメラレタルコト、又裏面備考欄ニハ懲役禁錮以外ノ刑、即チ罰金拘留等ノ前科ヲモ記載ヲ要セシヲ懲役、禁錮及ヒ舊

刑法ノ之ト同質ノ刑ノミニ改メラレタルコト、又指紋原紙ヲ發送スル
トキハ正本ト副本トヲ各一括トスヘキコトニ定メラレタル等ナリ、其
他詳細ナル點ニ就テハ宜ク從前ノ訓令、指示、通牒等ト改正規程トヲ比
較對照シ研究セラレンコトヲ望ム次第デアリマス。

十 指紋原紙ノ検査

改正規程附則第十八條ニ依リ從前ノ訓令、指示、通牒中本規程ニ牴觸
スルモノハ本規程施行ト同時ニ廢止セラレタルモ、指紋原紙取扱ニ關
スル注意事項等ニシテ依然有效ノモノ尠カラサルヘシ例之ハ四十三
年典獄會議注意事項中、看守ヲ以テ指紋擔當者トシタル監獄ニ於テハ
其作成ニ係ル原紙ハ指紋法ノ講習ヲ受ケタル看守長ヲシテ必ス檢閲
セシムヘキコト云々等ニ付テハ、矢張將來ニ於テモ注意セサルヘカラ
サルモノト思フ、又從來ニ於テモ必ス主任看守長タル文書主任ニ於テ

進達前仔細ニ検査ヲ遂ケラレツ、アツタコトハ疑ナイノテアルカ、各
監獄ヨリ進達セラル、原紙中今尙杜撰ノモノカアツテ照會往復ノ絶
ヘナイノハ遺憾ノ次第テアル、吾人ハ此際當指紋部ニ於テ行ヒツ、ア
ル検査ノ順序ヲ述ヘ各指紋擔當者諸君ノ參考ニ供スルト同時ニ、各監
獄及ヒ分監ニ於ケル進達前ノ検査ト相待テ指紋事務ノ完璧ヲ期シタ
イト思フ、即チ當指紋部ノ検査ノ順序ヲ略記スレハ

- 一 先ツ表面上欄左手ヨリ中欄右手ニ至ル回轉印寫ニ係ル十個ノ指
紋印象ヲ擴大鏡ニテ精密検査ス(此時線數ノ計算誤、線數ハ正確ナル
モ分類番號ヲ誤リシモノ、甲種ト乙種トノ相違、双胎紋又ハ二重蹄狀
紋ヲ普通蹄狀紋ト誤リシモノアルヲ發見スルコト尠カラス、又外角
ノ缺如セルニ拘ラス備考ニ其理由明記セサルモノアリ)
- 二 前上ノ検査了レハ回轉印寫ノ各指紋ト下欄左手右手ノ平面印寫
ノ各指紋ト對照ス(此時稀レニ左手ト右手ト互ニ押捺ヲ誤レルヲ發

見スルコトアリ)

三 次テ裏面ニ於ケル左手示指ノ印象ト表面ニ押捺シアル夫レト對照ス(此時稀ニ右手ノ示指押捺スルヲ發見スルコトアリ)

四 各指紋ノ對照了レハ表面ニ於ケル各記事ニ付検査ス(此時原籍出生地又ハ生年月日等ノ記載洩又ハ女ヲ男ト誤記スルヲ發見スルコトアリ、又ハ本人ノ氏名ノ囚人氏名自署欄ノ氏名ト異ルモノアルモ其理由記載ナキモノアリ)

五 次テ作成欄ノ記事及ヒ作成並ニ分類者ノ認印ニ付検査ス(稀ニ記載洩又ハ認印押捺洩ヲ發見ス)。

六 右了レハ裏面受刑事項ニ付検査ス(此時刑期計算ノ相違スルモノ尠カラサルヲ發見ス、調査ノ結果ニ依レハ多クハ未決勾留ノ算入日數記載洩ノモノ、又ハ刑期若クハ出獄日ノ誤記ニ因ルモノ多シトス)。

右ハ當指紋部ニ於テ行ヒツ、アル検査ノ一端ナリ、尙記載スヘキ事項ナキニアラサルモ之レニテ擱筆スルコト、ス。

(大正六年八月・藤井生)

刑務所長(典獄)會議注意事項

- 一 指紋原紙作成表ノ記入方左ノ通一定スルヲ要ス(大正七年五月)
- イ 再度押捺者原紙アルトキハ(1)ノ原紙發送數ノ相當欄ニ朱記スルコト
- ロ 移監ヲ受ケタル受刑者中押捺若クハ報告未濟ノモノアルトキハ其數ヲ(3)ノ新受刑者ニ合算整理スルコト
- ハ 餘罪ノ刑確定シ受刑追加小票ヲ作成シタルトキハ(3)ノ受刑追加人員欄ニ其數ヲ朱記スルコト
- ニ 左記ノ事項アラハ之ヲ備考餘白ナキトキハ別紙ニ掲クルコト
 - 一 短期發送濟原紙ノ發送月日及其氏名
 - 二 月末現在押捺未濟者ノ氏名及押捺未濟ノ事由
 - 三 新受刑者中押捺未濟前ノ死亡者數

- 一 新入者ノ指紋原紙中印象不鮮明ノ事由カ一時的故障ニ屬シ時ノ經過ト共ニ鮮明ヲ期シ得ヘシト認メラルモノモ其ノ儘發送セラレルモノアリ是等ノ指紋原紙ハ滿期切迫ノ者ノ外ハ押捺未濟トシテ翌月ニ繰越シ相當時期ヲ見計ヒ改寫ノ上發送スルノ注意アルヘキコト(大正八年十一月)
- 一 最近前科ノ執行監獄カ朝鮮總督府又ハ臺灣總督府管内ニシテ共通法施行以前ノ出獄ニ係ル者ニ付テハ受刑追加報告ニ據ラス新ニ指紋原紙ヲ作成送付スルヲ要ス
- 一 引續キ執行スヘキ餘罪ニ對スル指紋原紙受刑追加報告漏ノモノアリ右ハ刑確定時ニ於テ報告スルヲ要ス
- 一 指紋原紙受刑追加小票ニ記載スヘキ最近前科カ指紋原紙取扱規程實施以前ニ於テ假出獄其他刑期終了前ニ出獄シタル者ニ係ルトキハ其旨小票ノ餘白ニ附記スルヲ要ス

一 指紋原紙作成表其他指紋ニ關スル諸報告ハ取纏メ成ルヘク原紙ト共ニ發送スルヲ要ス(以上四件大正十年五月)

一 指紋原紙ノ發送及報告上左記事項ニ付注意スルヲ要ス

(大正十一年十一月)

イ 刑期三月以上ノ者ト雖モ執行期間三月ニ滿タサル者ノ原紙ハ其ノ都度發送スルコト

ロ 餘罪ノ刑ヲ受刑事項ノ異動トシテ報告スル向アリ右ハ受刑事項ノ追加トシテ小票ヲ以テ報告スルコト

ハ 累犯加重ニ關スル異動報告アルニ拘ラス累犯ノ原因ト爲ルヘキ前科發見報告漏ノモノアリ

...

朝鮮人及ヒ臺灣人受刑者指紋原紙

作成ノ件通牒

司法部監甲第六六八號
大正七年十一月十一日
司法部監獄局長通牒

共通法施行ノ結果朝鮮及ヒ臺灣ニ於ケル内地人受刑者ノ指紋原紙ヲ當省ニ蒐集スルト同時ニ内地ニ於ケル朝鮮人及ヒ臺灣人受刑者ノ指紋ヲ徵シ朝鮮總督府又ハ臺灣總督府ニ送付スルコトニ協議致候ニ付今後朝鮮人又ハ臺灣人ニシテ受刑スル者アルトキハ之ニ對スル指紋原紙及指紋ニ關スル報告ハ指紋原紙取扱規程ニ依リ本省へ送付スル外左ノ通御取扱相成度

一 朝鮮人又ハ臺灣人ニシテ新ニ受刑入監スル者アルトキハ其指紋ヲ押捺セシメ朝鮮人ハ別紙第一號樣式臺灣人ハ別紙第二號樣式ノ指紋原紙ヲ正副二通作成シ朝鮮人ノ分ハ朝鮮總督府司法部ニ臺灣

- 人ノ分ハ臺灣總督府法務部ニ送付スヘキコト
- 二 朝鮮人又ハ臺灣人ニシテ現ニ刑執行中ノモノアルトキハ前項ノ例ニ據リ此際指紋原紙ヲ作成送付スヘキコト
- 三 指紋ノ押捺ヲ要スヘキ受刑者ノ種類、原紙記載例、原紙及ヒ報告ノ發送方法等ハ指紋原紙取扱規程ヲ準用スヘキコト
- 四 朝鮮人受刑者ノ指紋原紙ニハ正本副本共分類ノ價ヲ附セサルコト
- 五 朝鮮總督府又ハ臺灣總督府ニ於テ指紋ニ依リ前科包藏ノ事實ヲ發見シタルトキハ直接監獄ニ通知スル筈ナルニヨリ之カ通知ニ接シタルトキハ當該檢事ニ通知スルカ其他相當ノ措置ヲ爲スヘキコト
- 六 指紋ヲ押捺セシメタル朝鮮人又ハ臺灣人ニシテ再ヒ受刑入監シタルトキノ受刑追加報告其他指紋ニ關スル報告事項ハ指紋原紙取

- 扱規程第八條ニ準シ取扱ヒ朝鮮人ノ分ハ朝鮮總督府司法部ニ臺灣人ノ分ハ臺灣總督府法務部ニ通知スヘキコト
- 七 原紙及ヒ受刑追加小票ヲ發送スルトキハ原紙作成表ヲ添付セス只其員數ヲ明記スヘキコト
- 八 指紋原紙用紙ハ別途小包ヲ以テ送付ス爾後不足ヲ生シタルトキハ朝鮮總督府司法部又ハ臺灣總督府法務部ニ請求スヘキコト

內務省用指紋原紙作成方ノ件

(大正十一年九月二十八日、行甲
第一四二四號、司法部次官通牒)

今回內務省ニ於テ大阪及福岡ニ刑事鑑識資料トシテ指紋原紙ヲ蒐集シ以テ刑事警察ニ補益セントスル計畫有之依テ司法部ハ指紋原紙ノ數相當リ額ニ達シ鑑識資料トシテ之ヲ利用スルコトヲ得ルニ至ル迄

從前警視廳ニ交付セシモノ、外更ニ三枚増製交付シ存計書ヲ援助可致スルニ相成(中略)付テハ左ノ通夫等御取調相成處候ハ、
一 新受刑者ノ指紋原紙ハ指紋原紙取扱規程(以下規程ト稱ス)第五條ニ依リ作成スル外二通増製スルコト
但増製ニ係ル原紙ハ二通共指紋ノ押捺、氏名欄ノ記入及氏名ヲ自署セシムル外各欄ノ記入ヲ省略スルコト
二 規程第八條第一項第一號ニ該ル者ト雖未タ本通牒ノ指紋原紙ヲ作成セサルトキハ受刑追加小票ノ外新ニ原紙二通作成スルコト
但一通ノ原紙ハ規程第十五條ニ依リ各欄ノ記入ヲ要スルモ分類番號ノ記入ヲ省略シ裏面受刑事項欄ハ最近二個ノ受刑事項ヲ記入シ爾餘ノ前科ハ備考欄ニ「外何犯」ト記載スルコト、又一通ノ原紙ハ指紋ノ押捺、氏名欄ノ記入及氏名ヲ自署セシムル外各欄ノ記入

ヲ省略スルコト

現在受刑者ニ對スル指紋原紙ノ作成

三 現在受刑者從來指紋押捺ヲ要スヘキ刑ニ該ル者ニ對シ此ノ際指紋原紙各二通ヲ作成シ所在地警察官ニ交付スルコト

但指紋ノ押捺、氏名欄ノ記入及氏名ヲ自署セシムルニ止メ原紙各欄ノ記事ハ内務省側ヨリ警察官ヲ當該監獄ニ派遣セシムル筈ニ付身分帳簿ヲ提示シ記入ノ便ヲ與フルコト

指紋原紙ノ發送其ノ他

四 第一項ニ依リ増製シタル二通ノ原紙ハ規程第五條ニ依リ作成シタル副本原紙ト都合三通ヲ一組トシ、又第二項ニ依リ作成シタル原紙ハ二通ヲ一組トシ之ヲ組合セ發送スルコト
五 第二項ニ依リ作成シタル原紙ハ規程第七條第二項ニ該ルモノト雖其ノ都度發送ヲ要セス

- 六 本通牒ニ依リ作成シタル原紙數ハ指紋原紙作成表ニ記入ヲ要セ
ス
- 七 本通牒ノ原紙ヲ作成シタルトキハ身分帳簿表紙裏面ニ内務省指
紋原紙作成済ナルコトヲ明記シ取扱者ニ於テ捺印スルコト
- 八 指紋原紙ノ用紙ハ内務省ヨリ各監獄(本監、分監、出張所別)ニ配付ノ
筈ニ付該用紙ノ到達後指紋ノ押捺ニ着手スルコト

犯罪人異同識別法取調會決定

犯罪人異同識別法取調ノ命ヲ受ケ調査候處別冊ノ通ニ有之候此段及
報告候也

明治四十一年九月十四日

- | | |
|-------------|-------|
| 司法省參事官 | 大場茂馬 |
| 監獄事務官 | 豊野胤珍 |
| 檢事 | 古賀行倫 |
| 監獄事務官 | 眞木喬 |
| 司法省參事官 | 谷田三郎 |
| 司法省監獄局長 | 小山溫 |
| 司法省民刑局長法學博士 | 平沼騏一郎 |

司法大臣子爵岡部長職殿

犯罪人異同識別法取調會議決定

犯罪人異同識別法ニ付テハべるちよんノ身體測度法ヲ採用スヘキカ
若クハ指紋法ヲ採用スヘキカニ付調査ノ結果身體測度法ハ其方法複
雜ニシテ練習モ又容易ナラス殊ニ精巧ノ器械ヲ要スルカ故ニ莫大ノ
費用ヲ要ス然ルニ指紋法ハ之ニ反シテ其方法簡單ノ爲メ練習モ容易
ナリ且ツ費用ヲ要スルコト少ク而モ其成績良好ナルハ英國其他ノ實
驗スル所ニシテ歐洲ニ於テハ益此方法發達セントスルノ實況ナルヲ
以テ之ヲ採用スルコトニ議定セリ

Finger prints (Daktyioskopie)

Cores (Kern)

指紋
中心

Delta (Dolka)

Outer terminus (Ausserer Terminus)

Inner terminus (Innerer Terminus)

Arches (Arcus od. Bogen)

Tented arches (Tannenartige Bogen)

Loops (Lasso od. Schlingen)

Radial Loops (Radialschlingen)

Ulnar loops (Ulnarschlingen)

Whorls (Wirbel)

Inner (Inner)

meeting (mittel)

Outer (Ausser)

外角
外端
内端
弓狀紋
天幕狀紋
蹄狀紋
甲種
乙種
渦狀紋
上流
中流
下流

Composites (Zusammengesetzte) 混合紋
 Central pocket Loops (Zentraltaschenschlingen) 有胎蹄狀紋
 Twinned Loops (Zwillingschlingen) 雙胎蹄狀紋
 Lateral pocket Loops (Doppelschlingen) 二重蹄狀紋
 Accidental (Zufällige Muster) 變體紋
 Ridge 線

方今英國其他歐洲諸國ニ於テ行ハル、指紋法ハヘンリー氏式ナルモ指紋法中最新ナルモノハはんぶるぐ式ナリトス、後者ハ前者ニ比シ指紋ノ分類指紋用紙ノ分類及ヒ索引ノ點ニ於テ極メテ簡單ナリはんぶるぐ式ハ指紋ヲ大別シテ弓狀紋、蹄狀紋、渦狀紋ノ三種トナス尙ホ蹄狀紋ヲ分テ甲乙ノ二種トナス、而シテ此式ノ長所トスル所ハ各指紋ニ一定ノ價ヲ付シ此價ニ從ヒ各指紋ヲ分類セント企テタル一事ニ

アリ即チ弓狀紋ニハ(一)ノ價ヲ甲種蹄狀紋ニハ(二)ノ價ヲ乙種蹄狀紋ニハ(三)乃至(六)ノ價ヲ渦狀紋ニハ(七)乃至(九)ノ價ヲ付シ以テ得タル價ノ數ニ從ヒ指紋ヲ押捺シタル紙(指紋原紙)ヲ排列ス、而シテ其標準トスヘキハ左手ナリ、何トナレハ左手ハ右手ニ比シテ負傷其他指紋ヲ害スヘキ危險ニ接スルコト少シト認メラル、ヲ以テナリ、左手ノ各指中各種類ノ指紋ヲ有スルモノハ拇指ニアラサルカ如シ、仍テ其次位ニアル示指ニ存スル指紋ヲ以テ標準トシタリ、故ニ指紋ヲ押捺スルニハ示指ヨリ初メ中指、環指、小指、拇指ニ及フヘキモノトス、此順序ニ從ヒ各指紋ニ付スヘキ價ヲ指紋原紙ノ右端ニ記載ス、而シテ此價ハ示指ノ指紋ノ價ヲ萬位トシ中指ノ夫ヲ千位トシ環指ノ夫ヲ百位トシ小指ノ夫ヲ十位トシ拇指ノ夫ヲ一位トシ之ヲ何萬何千何百何十ト讀ム而シテ指紋原紙ノ排列ハ前述ノ方法ニ因リ記載シタル數ノ大小ニ基クカ故ニ其排列並ニ索出ニ便ナリ右手ノ指紋モ亦同一ノ方法ニ從ヒ押捺シ之ニ依

ツテ得タル數ヲ左手ノ指紋數ノ下ニ記載シ以テ左手ノ指紋ト同一ノ數ヲ得タル場合ニ於テモ尙ホ區別スルヲ得セシム
加之以上ノ分類ノ適當ナルコトハ同所ノ統計上ノ結果ニ依リ證明セラレタリ、同所ノ統計ニ依レハ指紋全部ノ中弓狀紋ハ百分ノ五ヲ甲種蹄狀紋ハ百分ノ五乙種蹄狀紋ハ百分ノ六十渦狀紋ハ百分ノ三十ヲ有ス

又乙種蹄狀紋ニ(三)乃至(六)ノ價ヲ付スルコト前述ノ如シ、此價ノ區別ハ乙種蹄狀紋ノ外端ヨリ内端ニ至ル指頭隆線ノ數ノ多少ニ依ル、内端ト外端トノ間ニ存スル指頭隆線ノ數九以下ナルトキハ其價(三)ヲ付シト以上十三ナルトキハ其價(四)ヲ付シ十四以上十六ナルトキハ其價(五)ヲ付シ十七以上ナルトキハ其價(六)ヲ付ス、此價ヲ付シタル所以ノ根據ハ乙種蹄狀紋ノ外端ヨリ内端ニ至ル指頭隆線ノ數ニ對シ爲シタル統計ニ基キ平等ニ之ヲ分配シタルモノナリ

渦狀紋ニ(七)乃至(九)ノ價ヲ付スルコト前述ノ如シ、此ノ價ノ區別ハ上流中流下流ノ如何ニ依リテ岐ル、モノニシテ上流ハ之ヲ(七)トシ中流ハ之ヲ(八)トシ下流ハ之ヲ(九)トナス

はんぶるぐ式カ果シテ我國ニ施行スルヲ得ルヤ又之ヲ施行スルヲ得ルトセハ其式其儘之ヲ施行スルヲ得ルヤ或ハ多少ノ變更ヲ加フル必要ナキヤヲ試験センカ爲メ市ヶ谷監獄ノ囚人全員一千五十七名ノ指紋ヲ押捺セシメ之カ指紋ノ統計ヲ取調ヘタル處、其結果頗ル良好ニシテ僅少ノ變更ヲ加ヘ之ヲ採用スルヲ相當ト認メタリ左ニ之ヲ説明セ

はんぶるぐ式ニ從ヒ市ヶ谷監獄ノ囚人全員ノ指紋原紙千五十七枚ノ各指紋一萬〇五百七十ニ對スル統計ノ結果左ノ如シ
一 弓狀紋(一)一萬分ノ一八一

二、蹄狀紋一萬分ノ五、二七六

甲種蹄狀紋(二)一萬分ノ三八四

乙種蹄狀紋一萬分ノ四、八九二

(三) 一萬分ノ一、一六二
 (四) 一萬分ノ一、四三二
 (五) 一萬分ノ一、二一〇
 (六) 一萬分ノ一、〇八八

三、渦狀紋一萬分ノ四、五一六
 (七) 一萬分ノ二、〇四〇
 (八) 一萬分ノ一、〇九四
 (九) 一萬分ノ一、三八二

尙ホ指頭缺損若クハ指紋缺損シタルカ爲メ同式カ零ト算ヘラルヘキ
 モノ一萬分ノ二十七アリ

右統計ノ結果ニ依レハはんぶるぐ式ノ統計ト一致セサルモノアリト
 雖モ大體ノ數ニ於テ甚シキ相違ナキカ故ニ我國ニ於テはんぶるぐ式
 ヲ採用スルニ於テ毫モ支障ナント議定セリ
 又左右十指ニ存スル指紋ノ分配ヲ見ルニ統計ノ結果左ノ如シ

| 指頭缺損 | 蹄狀紋 | | | | | | | | | 渦狀紋 | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 甲種 | | | 乙種 | | | 甲種 | | | 乙種 | | | | | | | | |
| (〇) | (九) | (八) | (七) | (六) | (五) | (四) | (三) | (二) | (一) | (九) | (八) | (七) | (六) | (五) | (四) | (三) | (二) | (一) |
| 一 | 九 | 七 | 三 | 一 | 二 | 七 | 六 | 七 | 三 | 九 | 七 | 三 | 一 | 二 | 七 | 六 | 七 | 三 |
| 五 | 七 | 二 | 一 | 三 | 八 | 二 | 一 | 一 | 五 | 二 | 七 | 二 | 四 | 八 | 二 | 一 | 一 | 五 |
| 二 | 七 | 六 | 一 | 九 | 七 | 二 | 一 | 一 | 三 | 四 | 三 | 一 | 二 | 七 | 六 | 七 | 三 | 二 |
| 三 | 四 | 一 | 二 | 二 | 七 | 二 | 一 | 一 | 〇 | 五 | 三 | 一 | 二 | 七 | 六 | 七 | 三 | 二 |
| 七 | 五 | 一 | 二 | 一 | 三 | 二 | 一 | 一 | 二 | 三 | 二 | 一 | 二 | 七 | 六 | 七 | 三 | 二 |
| 〇 | 五 | 三 | 二 | 二 | 七 | 二 | 一 | 一 | 二 | 三 | 二 | 一 | 二 | 七 | 六 | 七 | 三 | 二 |

注意 本統計ハ總テ千分ノ比例ヲ以テ算出シタルモノトス
 右統計ニ徴スルトキハ左ノ示指ヲ以テ比較的 最モ平均ヲ得タルモノ

トス、何トナレハ左ノ示指ニ存スル各指紋ノ數ハ千分ノ三十九ヨリ小ナルモノナク千分ノ百七十五ヨリ大ナルモノハナシ、而シテ如斯平均數ハ他ノ指ニ於テ之ヲ需ムルヘカラス

左右ノ拇指ニ付テ之ヲ檢スルニ左ノ拇指ニハ乙種蹄狀紋僅カニ七ヲ示スニ反シ渦狀紋中上流(七)ハ三百二十四ノ多數ヲ有ス、右ノ拇指ハ弓狀紋僅カニ十、甲種蹄狀紋ハ僅カニ二ノ數ヲ有スルニ對シ渦狀紋中ノ下流(九)ハ三百十七ヲ有ス

次ニ左右ノ中指ニ付テ檢スルニ左ノ中指ハ乙種蹄狀紋僅カニ十八、弓狀紋二十三ヲ有スルニ對シ蹄狀紋及ヒ渦狀紋中ニ百五十以上ヲ有スルモノ四アリ

次ニ又左右ノ環指ニ付テ之ヲ檢スルニ左ノ環指ハ弓狀紋、甲種蹄狀紋僅カニ三ヲ算スルニ對シ渦狀紋中ノ上流ハ四百四十三ヲ算ス、右ノ環指ノ弓狀紋ハ四、甲種蹄狀紋ハ僅カニ四ヲ算スルニ對シ渦狀紋中ニ二

百四十以上ヲ算スルモノ二個アリ

又左右ノ小指ニ付テ檢スルニ左ノ小指ノ弓狀紋ハ皆無ニシテ甲種蹄狀紋ハ僅カニ二、渦狀紋中ノ下流(九)ハ僅カニ五ヲ算スルニ反シ蹄狀紋及ヒ渦狀紋中二百以上ヲ算スルモノ三個アリ、又右ノ小指モ殆ト同様ニシテ弓狀紋僅カニ一、甲種蹄狀紋僅カニ三ヲ算スルニ對シ渦狀紋中ノ下流ハ二百三十一ヲ算ス

終リニ右ノ示指ニ付テ之ヲ檢スルニ以上列擧ノ各指ノ如ク指紋ノ分配カ非常ナル不權衡ヲ見ルモノナシト雖モ之ヲ左ノ示指ニ比スレハ其劣ルコト遙カニ遠シ、例ヘハ弓狀紋四十二、乙種蹄狀紋中三十三ヲ算スルモノアルニ對シ渦狀紋ノ上流ハ三百三ヲ算セリ

唯左ノ示指ヲ標準トスル指紋ハ分類ニ於テ少シク不十分ニ感スルハ乙種蹄狀紋ノ中(三)及ヒ(四)ハ百二十以上ノ數ヲ有スルニ反シ(五)ハ八十(六)ハ僅カニ四十一ヲ算セリ、仍テ之カ救濟ノ方法ヲ講セント欲シ左

ノ示指ニ存スル乙種蹄狀紋全部ニ付キ其外端ヨリ内端ニ至ル數ヲ算
ヘタルニ左ノ結果ヲ得タリ

| | | | |
|-----------------------|-------|-----------------------|-------|
| 乙種蹄狀紋ノ外端ヨリ内端ニ至ル指頭隆線ノ數 | 同上ノ個數 | 乙種蹄狀紋ノ外端ヨリ内端ニ至ル指頭隆線ノ數 | 同上ノ個數 |
| 一 | 三 | 一 | 十 |
| 二 | 七 | 二 | 十一 |
| 三 | 一六 | 三 | 十二 |
| 四 | 七 | 四 | 十三 |
| 五 | 二五 | 五 | 十四 |
| 六 | 一四 | 六 | 十五 |
| 七 | 一九 | 七 | 十六 |
| 八 | 一九 | 八 | 十七以上 |
| 九 | 二六 | 九 | 四一 |

以上ノ統計ニ基キはんぶるぐ式ニ訂正ヲ加ヘ指頭隆線ノ數ニ依リ一

ヨリ七迄ニ(三)ノ價ヲ付シ、八ヨリ十一迄ニ(四)ノ價ヲ付シ、十二ヨリ十四迄ニ(五)ノ價ヲ付シ、十五以上ニ(六)ノ價ヲ付スルトキハ(三)乃至(六)ハ殆ト平均ナル數ヲ得ルコト左ノ如シ

- (三)ノ價ヲ付スヘキモノハ一ヨリ七マテ 此總數八十一
- (四)ノ價ヲ付スヘキモノハ八ヨリ十一マテ 此總數百〇五
- (五)ノ價ヲ付スヘキモノハ十二ヨリ十四マテ 此總數九十八
- (六)ノ價ヲ付スヘキモノハ十五以上 此總數八十九

而シテ前述指頭隆線ノ數ノ分配ハ前述ノ指紋全數ノ統計中乙種蹄狀紋ノ指紋ノ分配ト相類スルヲ以テはんぶるぐ式ニ左ノ變更ヲ加フルヲ相當ト議定シタリ

| | | |
|---------------------|-------|-------|
| 乙種蹄狀紋ノ外端ヨリ内端ニ至ル隆線ノ數 | 一以上七八 | 其價(三) |
| 同上 | 八以上十一 | 其價(四) |

同上

十二以上十四ハ 其額(五)
十五以上 其額(六)

以上議定シタル方法ニ基キ市ヶ谷監獄千〇五十七人ニ對スル指紋ヲ分類スルトキハ左ノ如キ結果ヲ得タリ

| 弓狀紋 | 甲種蹄狀紋 | 乙種蹄狀紋 | 渦狀紋 |
|---------|---------|---------|---------|
| (一) | (二) | (三) | (四) |
| 一〇〇〇〇以上 | 二〇〇〇〇以上 | 三〇〇〇〇以上 | 四〇〇〇〇以上 |
| 一九九九九マテ | 二九九九九マテ | 三九九九九マテ | 四九九九九マテ |
| 六〇 | 一五七 | 八一 | 一〇五 |
| | | | 九八 |
| | | | 八九 |
| | | | 一五〇 |
| | | | 一二七 |
| | | | 一八五 |

指紋ノ缺損 (〇)
(以下之ヲ略ス)

〇〇〇〇〇以上

〇九九九九マテ

五

司法省行刑局指紋原紙取扱心得

(監甲第五三六號 大正六年十月六日決裁)

(本文中監獄局長トアルハ行刑局長、監獄事務官トアルハ司法書
記官、典獄トアルハ刑務所長、監獄トアルハ刑務所ト知ルヘシ)

第一 指紋原紙ノ検査

- 一 各監獄ヨリ送付セル指紋原紙ハ検査擔任者ヲ設ケ精密検査ヲ爲
サシムヘシ
- 二 各監獄ヨリ指紋原紙ノ送付アリタルトキハ指紋主任ハ之ヲ日誌
ニ記載シ検査擔任者ニ配付スヘシ
- 三 検査擔任者ハ指紋原紙ノ配付ヲ受ケタルトキハ刑期ノ短キモノ
ヨリ成ルヘク速ニ検査ヲ遂ケ遲滯スルコトアルヘカラス
- 四 指紋原紙ノ検査ハ左ノ各號ニ注意スヘシ

- イ 回轉印寫ト平面印寫ト相違スルモノナキヤ
- ロ 回轉印寫ノ左手示指ト裏面ノ夫レト相違スルモノナキヤ
- ハ 回轉印寫不充分ノ爲メ外角ニ缺如セルモノナキヤ
- ニ 外角ノ缺如セルニ拘ラス備考ニ其事由記載セサルモノナキヤ
- ホ 印象ノ不鮮明ナルニ拘ラス備考ニ其事由記載ナク若シ記載ア
ルモ改寫ノ爲メ鮮明ヲ期シ得ルモノナキヤ
- ヘ 氏名欄ノ氏名ト裏面囚人氏名欄ノ氏名ト相違セルニ拘ラス其
事由記載セサルモノナキヤ
- ト 表面各欄ニ記載漏ナキヤ
- チ 裏面受刑事項欄ノ記事ニ脱漏誤記ナキヤ就中刑期計算上相違
セルモノナキヤ
- 五 前項各號ノ一ニ該當スルモノアルトキハ其旨指紋主任ニ報告ス
ヘシ

六 指紋主任ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ必要アリト認メタルトキハ監獄事務官ニ經伺ノ上當該監獄ニ照會ノ手續ヲ爲スヘシ

七 指紋主任ハ毎月初旬前月中ノ各指紋検査擔任者ノ取扱數検査未了數ヲ調査シ監獄事務官ニ報告スヘシ

第二 指紋原紙ノ整理

八 検査済又ハ記入等ノ爲メ引出シタル指紋原紙ハ原紙整理擔任者ヲ設ケ速ニ各指紋函ニ收メ整理セシムヘシ

九 原紙整理擔任者ハ自己主管ノ指紋函ハ常ニ整理ヲ期スルト同時ニ左ノ各號ニ注意スヘシ

イ 一棚ノ原紙ハ同一番號ヲ除クノ外成ルヘク三百枚ヲ限度トスヘシ

ロ 同一番號ノモノハ年齢順ニ整頓シ其老イタルモノヨリ若キモノニ及ホスヘシ

ハ 新ナル原紙ヲ挿入セントスルトキハ其指紋特徴ニ依リ同一指紋ノ有無ヲ調査スヘシ

ニ 指紋原紙中保存期限經過ノモノナキヤ否ヲ調査スヘシ

ホ 函内ハ常ニ掃除ヲ爲シ清潔ヲ期スヘシ

ヘ 各棚ニ付セル見出札ノ剝離セルモノアラハ直ニ修理スヘシ

十 指紋原紙整理ノ際同一指紋ヲ發見シタルトキハ該原紙ヲ添ヘ指紋主任ニ報告スヘシ

十一 指紋主任ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ調査ヲ遂ケ原紙ノ記事ヲ整理スルト同時ニ在監中ノ者ニ付テハ其旨典獄ニ通牒ノ手續ヲ爲スヘシ

十二 指紋函ハ毎月期日ヲ定メ漸次検査ヲ爲シ整理ノ確實ヲ期スヘシ但各指紋函ハ少クトモ一年一回以上検査スヘキモノトス

十三 前項ノ検査ヲ遂ケタル指紋函ニハ其検査年月日ヲ表示シ置ク
ヘシ

十四 指紋主任ハ定期外ニ各指紋函ニ付時々検査ヲ行フヘシ

十五 指紋主任ハ検査簿ヲ設ケ前三項ノ検査狀況ヲ記載シ監獄事務
官ニ報告スヘシ

十六 指紋主任ハ死亡、重複、前科發見、保存期限經過等ノ爲メ不用ニ歸
シタル原紙アルトキハ原紙廢棄伺簿ニ記入シ監獄事務官ニ經伺ノ
上廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

十七 指紋主任ハ毎月初旬ニ於テ指紋原紙ノ作成、廢棄、現在保管數ヲ
調査シ監獄事務官ヲ經テ監獄局長ニ報告スヘシ

第三 指紋ノ對照

十八 指紋對照ヲ受ケタルトキハ指紋主任ハ之ヲ日誌ニ記載シ對照
擔任者ニ配付スヘシ

十九 對照擔任者ハ對照原紙ノ配付ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ分類
シ對照ヲ爲スヘシ

二十 指紋ヲ對照スルニ當テハ各類似ノ指紋ニ付繰返シ精査スルハ
勿論尙記入等ノ爲メ各擔任者ノ手許ニアルヤ否ヲ調査スヘシ

二十一 對照ノ結果同一指紋ヲ發見シタルトキハ當該原紙ヲ添ヘ又
該當者發見セサルトキハ其旨ヲ指紋主任ニ報告スヘシ

二十二 指紋主任ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘ
シ

イ 同一指紋ヲ發見シタルモノニ付テハ人違ナキヤ否ヲ調査シ同

一人ト認メタルトキハ最近前科二犯及ヒ外何犯ナルヤヲ記入

シ尙氏名及ヒ原籍年齢等ノ記入若クハ照合ヲ遂ケ回答スヘシ

ロ 該當者發見セサルモノニ付テハ他ノ對照擔任者ヲシテ再調セ

シメ該當者ナキヲ確メタルトキ其旨ヲ回答スヘシ

ハ 再審ノ上該當者發見セサリシ指紋ト雖モ疑ノ存スルモノアルトキハ警視廳備付ノ指紋ト對照スヘシ

二十三 對照指紋ノ回答ハ立案ノ手續ヲ爲サス該原紙ニ付箋シ該當者有無ヲ明カニシ監獄事務官ノ認印ヲ受ケ發送スヘシ

二十四 指紋ノ對照ヲ遂ケ該當者ナシト回答シタルモノニシテ後日ニ至リ同一指紋ヲ發見シタルモノアルトキハ指紋主任ハ其事由ヲ監獄事務官ニ報告スヘシ

二十五 指紋主任ハ毎月初旬ニ於テ前月中ノ指紋對照ニ關スル成績ヲ調査シ監獄事務官ヲ經テ監獄局長ニ報告スヘシ

第四 受刑追加事項ノ記入

二十六 各監獄ヨリ受刑追加小票ノ送付ヲ受ケタルトキハ指紋主任ハ之ヲ日誌ニ記載シ受刑追加記入擔任者ニ配付スヘシ

二十七 受刑追加記入擔任者ハ前項ノ配付ヲ受ケタルトキハ當該者

ノ原紙ヲ索出シ成ルヘク速ニ記入ヲ爲スヘシ

二十八 受刑事項ヲ原紙ニ追加記入セントスルトキハ左ノ各號ニ注意スヘシ

イ 小票ニ押捺シアル指紋ト當該原紙裏面ニ於ケル指紋ト相違スルコトナキヤ

ロ 小票ニ於ケル最近前科欄ノ記事ト當該原紙ニ於ケル夫レト相違スルコトナキヤ

ハ 小票ニ於ケル受刑事項中刑期計算其他ニ於テ誤記脫漏ノ點ナキヤ

二十九 前項各號ノ一ニ該ルモノアルトキハ其旨指紋主任ニ報告スヘシ

三十 指紋主任ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ必要アリト認メタルトキハ監獄事務官ニ經伺ノ上當該監獄ニ照會ノ手續ヲ

爲スヘシ

三十一 受刑追加記入擔任者ハ小票ノ事項ヲ原紙ニ記入シタルトキハ小票ニ於ケル原紙記入ノ目ニ認印シ且ツ毎月記入済ニ係ル小票ヲ取纏メ指紋主任ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ

三十二 記入ノ爲メ指紋函ヨリ原紙ヲ引出ストキハ一時ニ多數ニ涉ラサル様注意シ且ツ速ニ記入ヲ爲スヘシ如何ナル場合ト雖モ卓中其他指定外ノ場所ニ留置クコトヲ得ス

三十三 受刑事項ノ異動訂正死亡等ノ報告アリタルトキハ其都度記入スヘシ死亡者ニ付テハ該原紙ヲ索出シ指紋主任ニ差出スヘシ

第五 氏名索引票

三十四 各監獄ヨリ送付セル指紋原紙中檢査了リ分類番號確定シタルトキハ氏名索引票擔任者ハ直ニ索引票ヲ作成スヘシ

三十五 前項ノ索引票ハ字劃ヲ正シ校合ヲ確實ニシ誤謬ナキヲ期ス

ヘシ

三十六 新ニ作成シタルト原紙索出ノ爲メ使用シタルトヲ問ハス索引票ハ索引擔任者ニ於テ日日之カ整理ヲ爲シ遲滞ナキヲ期スヘシ

朝鮮總督府指紋取扱規定

(大正十年十二月二十九日)
訓令第七十一號

- 第一條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル受刑者ニ付テハ其ノ指紋ヲ押捺セシメ指紋原紙ヲ作成スヘシ
- 第二條 指紋原紙ハ刑ノ執行ニ著シタル三日内ニ之ヲ作成スヘシ
疾病其ノ他ノ事故ニ因リ指紋ヲ押捺セシムルコト能ハサル者ニ付テハ其ノ事故ノ止ミタル後直ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 指紋原紙ハ様式第一號ニ依リ二通ヲ作成スヘシ
但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ指紋原紙ニ代ヘ様式第三號ノ指紋原紙受刑追加小票一通ヲ作成スヘシ
- 一 受刑中他ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行指揮アリタルトキ
- 二 朝鮮總督府監獄ニ於テ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行ヲ受ケ再ヒ入

監シタルトキ

- 第四條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ釋放前ニ指紋ヲ押捺セシムルコト能ハサル場合ニ於テハ指紋原紙及指紋原紙受刑追加小票各欄ノ記入ヲ爲シ表面備考欄ニ其ノ事由ヲ朱記スヘシ
- 第五條 様式第一號ノ指紋原紙ハ一通ヲ本人身分帳簿ニ編綴シ他ノ一通及指紋原紙受刑追加小票ハ一月毎ニ取纏メ様式第四號ノ送付書ヲ添附シ翌月十日迄ニ本府ニ發送スヘシ
但シ刑期二月以下ニ係ルモノニ付テハ作成ノ都度之ヲ送付スヘシ
- 第六條 前條ノ手續ヲ爲シタル後左ノ事項アリタルトキハ各所定ノ様式ニ依リ一月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ報告スヘシ
- 一 懲役又ハ禁錮ノ前科アルコトヲ發見シタルトキ(様式第五號)
- 二 刑期ニ異動アリタルトキ(様式第六號)
- 三 刑期終了前出監シタルトキ(假出獄ノ場合ヲ除ク)(様式第七號)

- 四 假出獄ノ取消刑執行停止ノ取消又ハ逃走後ノ逮捕ニ依リ復監シタルトキ(様式第八號)
- 五 死亡シタルトキ又ハ出監後死亡シタルコトヲ知リタルトキ(様式第九號)
- 六 氏名ニ異動アリタルトキ(様式第十號)
- 七 身柄ノ移監ヲ受ケタルトキ(様式第十一號)
- 第七條 在監中指頭損傷シタルトキハ更ニ指紋原紙ヲ作成シ表面備考欄ニ其ノ事由ヲ朱記シ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條第二號ニ該當スル場合ニ於テ指頭ノ損傷アリタルトキハ指紋原紙ヲ作成シ表面備考欄ニ再入ノ記號ヲ押捺シ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 第二條乃至第四條及前條ノ場合ニ於テ内地人ナルトキハ様式第一號ノ指紋原紙又ハ指紋原紙受刑追加小票ノ外様式第二號ノ

- 指紋原紙二通ヲ作成シ共ニ送付スヘシ
- 第九條 在監者ヲ移監スル場合ニ於テ前各條ノ手續ヲ終ラサルトキハ其ノ旨ヲ通報シ移監ヲ受ケタル官廳ニ於テ所定ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 指紋ノ對照ヲ求メムトスルトキハ指紋原紙ノ表面備考欄ニ要對照ノ記號ヲ押捺シ本府ニ之ヲ送付スヘシ
- 第十一條 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ前科アルコトヲ發見シ又ハ其ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係裁判所ノ檢事ニ通報スヘシ
- 第十二條 監獄又ハ分監ニ指紋擔當者ヲ置キ指紋ノ事務ニ從事セシムヘシ

附則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
従前ノ規定ニ依リ作成シタル指紋原紙ハ本規程施行ノ際在監スル者

樣式第一號

| | | | | | | | | | |
|----------------------------|--------|----|----|------------------|----------------|-------------------|----|----|---------|
| 男 女 | 氏 名 | 異名 | 紀元 | 年 月 日 生 | 備考 指紋 番號 | — — — — — — — — — | 原籍 | 住所 | 出生 地 |
| | | | | | | | 身分 | | |
| (折) | | | | | | | | | |
| 左 手 | | | | | 右 手 | | | | |
| 示 | 指 | 中 | 指 | 環 | 指 | 小 | 指 | 拇 | 指 |
| (折) | | | | | | | | | |
| 左 手 | | | | | 右 手 | | | | |
| 示 | 指 | 中 | 指 | 環 | 指 | 小 | 指 | 拇 | 指 |
| (折) | | | | | | | | | |
| 大正 年 月 日 作成 大正 年 月 日 法務局檢査 | | | | | | | | | |

朝鮮總督府指紋原紙取扱心得及記載例

- 一 指紋ハ左ノ順序ニ依リ押捺セシムヘシ
 - (1) 指紋原紙表面上欄左手及中欄右手ノ部ニ各指定ノ指紋ヲ押捺セシムルニハ指頭第一關節ノ屈折線ヲ原紙ノ(折)ノ記號アル線上ニ持來タリ指爪面ノ一側ヲ紙上ニ置キ其ノ反對側ニ達スル迄充分廻轉セシムヘシ若押捺セシメタル印象不鮮明ナルトキハ更ニ上部ノ餘白ニ押捺セシムヘシ
 - (2) 指紋原紙表面下欄左手及右手ノ部ニハ拇指ヲ除キ他ノ四指ノ指頭ヲ同時ニ平面ニ押捺セシムヘシ
- 二 指紋原紙ノ表面ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ(別紙様式第一號及第二號參照)
 - (1) 指紋ノ番號ハ廻轉押捺セシメタル指紋印象ノ下部ノ區畫内左部

- ニ 亞刺比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スヘシ
- (2) 氏名欄ニハ身分帳簿ニ記載セル氏名ヲ記入シ若自署欄ノ氏名ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ氏名欄ニ記入スヘシ
難解又ハ讀方數箇ニ分カルル氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ
男女ノ區別ハ様式第一號ノ指紋原紙ニハ男ナルトキハ女ヲ、女ナルトキハ男ヲ抹消シ様式第二號ノ指紋原紙ニハ男女ノ別欄ニ男女ノ區別ヲ記入スヘシ
- (3) 原籍欄ニハ府縣郡市區町村大字里番地ヲ記入スヘシ
道府郡面町洞
- (4) 出生地欄ニハ出生地ヲ詳記シ航海中又ハ旅行中出生シタルモノナルトキハ其ノ旨及其ノ届出地ヲ記入スヘシ
- (5) 住所欄ニハ入監前ノ住所又ハ居所ヲ詳記スヘシ
- (6) 異名欄ニハ本名以外ノ通稱、俗稱、綽名、藝名等ヲ全部記入スヘシ
- (7) 出生年月日欄ニハ亞刺比亞數字ヲ以テ記入スヘシ

- (8) 紀元ニ依ル生年欄ニハ記入スルヲ要セス
 - (9) 身分欄ニハ華族、士族、平民、貴族、兩班、常民等ノ區別ヲ記入スヘシ
 - (10) 職業欄ニハ逮捕前ノ職業ヲ記入シ數種アルトキハ主ナルモノヨリ順次記入スヘシ
 - (11) 備考欄ニハ指頭損傷ノ程度、時期又ハ贅指ノ數等指紋ニ關スル參考事項ヲ記入スヘシ
 - (12) 指紋番號欄ニハ廻轉印象ニ對シ附シタル番號ヲ亞刺比亞數字ヲ以テ明瞭ニ記入スヘシ但シ本府ニ送付スル指紋原紙ニ付テハ之ヲ記入スルヲ要セス
 - (13) 作成欄ニハ指紋原紙ヲ作成シタル年月日及官署ヲ記入シ作成者ハ認印ヲ爲スヘシ
- 三 指紋原紙ノ裏面ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ(別紙様式第一號及第二號參照)

- (1) 受刑事項ハ懲役、禁錮及之ト同質ノ舊刑法及刑法大全ノ刑ニ該ルモノヲ刑執行ノ順序ニ依リ記入シ受刑事項六箇以上アルトキハ最近五箇ヲ記入シ其ノ他ハ備考欄ニ判決年月日罪名及刑名刑期ヲ順次ニ記入スヘシ
- 累犯加重ノ原因ト爲ラサル刑ト雖記入スヘシ
- 併科シタル罰金又ハ引續キ執行スル勞役場留置日數ハ之ヲ記入スルヲ要セス
- (2) 受刑事項中二箇以上引續キ執行スヘキ刑ヲ有スル者ニ付テハ一刑ニ付一欄ヲ用キ刑執行ノ順序ニ依リ記入シ刑名刑期ノ肩ニ(1) (2) ノ番號ヲ朱記シ且第一刑ノ摘要欄又ハ出獄事由欄ニ下欄ノ刑ヲ引續キ執行スル旨ヲ朱記スヘシ
- 判決確定年月日ハ刑ノ始期ト一致セサルトキニ限り摘要欄ニ記入スヘシ

- (3) 判決ヲ受ケタル氏名欄ニハ判決書ニ記載セル氏名ヲ記入スヘシ
- (4) 言渡官署欄ニハ確定シタル判決ヲ言渡シタル官署ヲ記入スヘシ
- (5) 罪名欄ニハ併合罪ナルトキハ併合サレタル各罪名ヲ記入スヘシ
- (6) 刑名刑期欄ニハ加重又ハ減刑ニ因リ變更サレタルモノ又ハ未決
勾留日數ノ算入サレタルモノナルトキハ原刑ノ傍ニ變更刑期又
ハ未決勾留算入日數ヲ朱記シ加重又ハ減刑ニ因ルモノニ付テハ
尙其ノ事由及年月日ヲ摘要欄ニ朱記スヘシ
- (7) 執行官署欄ニハ一箇ノ刑ヲ數箇ノ官署ニ於テ執行シタルモノナ
ルトキハ其ノ最後ニ執行シタル官署ヲ記入スヘシ
- (8) 出獄年月日欄ニハ現ニ執行中ノ刑ニ付テハ刑ノ終了ニ因リ出獄
スヘキ年月日ヲ記入スヘシ
- (9) 摘要欄及出獄事由欄ニハ恩赦、假出獄、刑ノ終了、刑ノ執行停止、逃走
等ヲ簡單ニ記入スヘシ現ニ執行中ノ刑ニ付テハ刑ノ終了ト記入

- スヘシ
- (10) 身長欄ニハ正確ニ測定シタル身長ヲ亞刺比亞數字ヲ以テ記入ス
ヘシ
- (11) 特徴欄ニハ痘痕、文身、天黥、創瘻、不具其ノ他指紋ニ關セサル著シキ
特點ヲ記入スヘシ
- (12) 自署欄ニハ本人ヲシテ自己ノ氏名ヲ縦ニ毛筆ニテ自書セシメ自
書不能ノトキハ其ノ旨ヲ記入スヘシ
- 四 指紋原紙ハ特ニ指定シタルモノヲ除ク外總テ黒インキヲ使用
シ明瞭ニ記載スヘシ
- 五 指紋原紙ハ之ヲ取纏メテ發送スルトキハ編綴スルコトナク平面
ニ展ヘボール紙ヲ以テ包装スヘシ
- 對照又ハ改捺等ノ爲若干枚ヲ發送スルトキハ(折)ノ配號アル線ヲ
折リ封筒ニ入ルルモ妨ケナシ

六 指紋原紙受刑追加小票ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ(別紙様式第三號參照)

- (1) 小票番號ハ曆年ニ依リ更改スヘシ
- (2) 原紙記入ノ欄ニハ監獄ニ於テハ記入スルヲ要セス
- (3) 本人ノ氏名カ最近前科ノ氏名ト異ルトキハ前科何々事何某ト記入スヘシ
- (4) 指紋番號欄ニハ必ス番號ヲ記入スヘシ
- (5) 左手示指欄ニハ左手示指ヲ鮮明ニ廻轉押捺セシムヘシ
- (6) 假出獄ノ取消刑執行停止ノ取消等ニ因リ復監シタル場合ニ於テ其復監シタル原刑ノ前後ニ於テ新ナル刑ヲ執行スルトキハ原刑ト新ニ執行スル刑トヲ併記シ兩者ノ關係ヲ小票ノ裏面ニ明記スヘシ
- (7) 二刑以上引續キ執行スルモノニ付テハ同一小票相當欄ニ(1)(2)ノ

番號ヲ附スヘシ

- (8) 參考ト爲ルヘキ事項ハ小票ノ裏面ニ記入スヘシ
- (9) 小票ノ裏面ニ事項ヲ記入シタルトキハ表面備考欄ニ裏面參照ト朱記スヘシ
- (10) 小票ヲ發送スルトキハ同幅ノ表紙ヲ添ヘ小穴ヲ通シテ括ルヘシ
- 七 様式第五號前科發見報告ハ既ニ報告済ノ前科アルトキハ其ノ罪名及刑名刑期ヲ備考欄ニ記載スヘシ(別紙様式參照)
- 八 様式第六號指紋押捺者受刑事項異動報告ハ變更事由別ニ記載スヘシ(別紙様式參照)
- 九 様式第七號指紋押捺者刑期終了前出監報告ハ出獄事由別ニ記載スヘシ(別紙様式參照)
- 十 様式第八號指紋押捺者復監報告ハ復監事由別ニ記載スヘシ(別紙様式參照)

十一 様式第十一號指紋押捺者移監收容報告ハ移送監獄別ニ記載ス
ヘシ(別紙様式参照)
(別紙様式省略)

臺灣總督府個人識別方取扱規程

(大正三年訓令第二百四號及同六年訓令第六十九號改正)

- 第一條 個人識別方トハ犯罪者其ノ他個人ノ異同ヲ識別スル方法ヲ謂フ
- 第二條 個人識別方ハ指紋原紙及氏名索引ノ二種ニ依リ交互索引ノ用ヲ爲スモノトス
- 第三條 本令ニ於テ特ニ規定スルモノノ外民政部法務部ニ送付スヘキ指紋原紙、氏名索引及其ノ他ノ報告ハ毎月、分ヲ翌月五日迄ニ發送スヘシ
- 第四條 監獄ニ於テ入監者アリタルトキハ指紋原紙ハ別記第一號様式、氏名索引ハ同第二號様式ニ依リ直ニ其ノ一人ニ付各三通ヲ作成シ左ノ區別ニ依リ處理スヘシ

一 指紋原紙ヲ直ニ其ノ監獄保管ノ指紋原紙及氏名索引ニ對照シ
前科ヲ調査記入シ其ノ刑確定ノ上入監シタル者ハ現犯ノ欄ニ
記入シタル後即日其ノ一通ヲ民政部法務部ニ送付スヘシ但シ
其ノ指紋原紙中本居、住所、出生地、職業及種族ノ欄ハ記入ヲ省略
スルコトヲ得

二 前號ノ者初犯トシテ入監シ監獄ニ於テ前科若ハ僞名ヲ發見シ
タルトキハ直ニ當該法院ノ檢察局ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ指紋
以外ノ方法ニ依リ前科ヲ發見シタルトキ亦同シ

三 第一號ニ依リ指紋原紙ヲ民政部法務部ニ送付シタル者受刑若
ハ出監シタルトキハ一通ノ氏名索引中受刑ノ欄ニ記入シテ民
政部法務部ニ送付シ監獄保管ノ指紋原紙ニハ現犯ノ欄ニ追記
シ氏名索引ト共ニ之ヲ分類シテ保管スヘシ

民政部法務部ニ於テ前項第一號ノ指紋原紙ノ送付ヲ受ケタルトキ

ハ直ニ保管ノ指紋原紙ニ對照シ若前科又ハ僞名ヲ發見シタルトキ
ハ受刑事項欄ニ記入シ當該法院ノ檢察局ニ送付スヘシ
檢察局ニ於テ前項ノ送付ヲ受ケタルトキハ相當處理ノ上其ノ原紙
ヲ監獄ニ返送スヘシ

監獄ニ於テ前項指紋原紙ノ返送ヲ受ケタルトキハ其ノ前科ヲ保管
ノ指紋原紙ニ記入シタル後民政部法務部ニ再送スヘシ
一時ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ直ニ指紋原紙又ハ氏名索引ヲ作成
スルコト能ハサル場合ハ其ノ事故ノ止ミタル後直ニ之ヲ作成シ其
ノ事由ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第五條 新ニ入監シタルモノニシテ曩ニ指紋原紙又ハ氏名索引ヲ作
成シ民政部法務部ニ送付シタルモノナルトキハ左ノ區別ニ從ヒ處
理スヘシ

一 其ノ指紋原紙及氏名索引ヲ前後對照シテ創傷其ノ他ノ事故ニ

因リ囊ニ指紋又ハ寫眞ノ印象若ハ記事ト相異アルトキハ後ノ指紋原紙又ハ氏名索引ニ其ノ相異セル事由ヲ備考欄ニ記入シ別記第四號様式ノ記號印ヲ欄外ニ押捺シテ之ヲ送付スヘシ但シ本居地ノ番地番戶住所、出生地、職業等ノ相異ニ付テハ特ニ事由ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

二 其ノ指紋原紙及氏名索引ヲ前後對照シ囊ノ指紋又ハ寫眞ノ印象若ハ記事ト相異ナキトキハ後ノ指紋原紙ニ新ナル受刑事項ヲ記入シ別記第五號様式ノ記號印ヲ欄外ニ押捺シテ之ヲ送付スヘシ

前項ノ者囊ニ他ノ監獄ニ入監シタルモノナルトキハ別記第十號様式ノ記號印ヲ指紋原紙及氏名索引ノ欄外ニ押捺シテ之ヲ送付スヘシ

第六條 在監者中囊ニ指紋原紙及氏名索引ヲ作成シ民政部法務部ニ

送付シタルモノニシテ印象又ハ記事ニ變更ヲ生シタルモノアルトキハ左ノ區別ニ從ヒ處理スヘシ

一 創傷其ノ他ノ事故ニ因リ指紋又ハ寫眞ノ印象ニ變更ヲ生シタルモノアルトキハ更ニ指紋原紙又ハ氏名索引ヲ作成シ囊ノ指紋番號、氏名及其ノ變更ノ事由ヲ備考欄ニ記入シ別記第七號様式ノ記號印ヲ欄外ニ押捺シテ之ヲ送付スヘシ

二 特赦、假出獄、刑ノ執行停止、逃走、加重刑ノ決定、餘罪ノ判決確定其ノ他刑ノ終期ニ異動ヲ生シタル場合及偽名ノ發見、移監其ノ他ノ事故ニ因リ指紋原紙又ハ氏名索引ノ記事ニ變更ヲ生シタルモノアルトキハ別記第六號様式ニ依リ報告書ヲ作り之ヲ送付スヘシ但シ本居地ノ番地若ハ番戶、住所、出生地、職業ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前二條ノ送付ヲ爲ス場合ニ於テ指紋原紙又ハ氏名索引ノ一

ヲ缺クトキハ追次番號ノ次()内ニ「原紙缺」若ハ「索引缺」ト記入スヘシ
第八條 指紋原紙又ハ氏名索引ノ印象若ハ記事ニ變更又ハ追記ヲ爲シ民政部法務部ニ送付シタルトキハ直ニ監獄保存ノ原紙又ハ索引ヲ更正スヘシ

第九條 他監ヘ移送スヘキモノニ付テハ別ニ指紋原紙及氏名索引ヲ作成シ身柄ト共ニ移送スヘシ

第九條ノ二 檢察局ニ於テハ刑事被告事件ニ關シ身柄ヲ監獄ニ拘留セサル者ニシテ懲役ノ刑ニ當ルヘキモノニ對シ罰金及答刑處分例第一條ニ依リ罰金ノ言渡アリタルトキハ直ニ指紋原紙二通ヲ作成シ其ノ刑確定シタルトキハ其ノ一通ヲ民政部法務部ニ送付シ他ノ一通ハ其ノ地ノ監獄ニ送付スヘシ

監獄ニ於テ前項ノ指紋原紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ氏名索引(測定事項ヲ除ク)ヲ作成シ指紋原紙ト共ニ分類保管スヘシ

第九條ノ三 即決官署ニ於テ懲役ノ刑ニ當ルヘキ者ニ對シ罰金及答刑處分例第一條ニ依リ罰金又ハ答刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ直ニ指紋原紙及氏名索引各二通ヲ作成シ其ノ刑確定シタルトキハ各一通ヲ民政部法務部ニ送付シ他ノ各一通ハ其ノ廳ニ於テ保管スヘシ但シ廳ニ於テ之カ保管ヲ不便トスル場合ハ監獄ニ送付スルコトヲ得

即決官署ニ於テ懲役ノ刑ヲ言渡シ之ヲ監獄ニ送致セス其ノ廳ニ於テ刑ヲ執行スルモノニ付亦前項ニ同シ

第九條ノ四 即決官署ニ於テ罰金及答刑處分例第一條ニ依リ罰金ノ言渡ヲ爲シ之ヲ完納スルコト能ハスシテ答刑若ハ勞役場留置ヲ執行スル者竝阿片令第十七條ニ依リ懲役ヲ罰金ニ換ヘタル者ハ更ニ指紋原紙ヲ作成シ民政部法務部ニ送付シ其ノ廳保管ノ指紋原紙ノ受刑事項欄ニ答刑又ハ勞役場留置ノ執行ヲ追記スヘシ

第九條ノ五 民政部法務部ニ於テ前三條ニ依リ指紋原紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ保管ノ指紋原紙ニ對照シ前科若ハ偽名ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ指紋原紙發送官廳ニ通知スヘシ

第十條 法院檢察局又ハ廳ニ於テ刑事被告人若ハ犯罪嫌疑者ニシテ前科包藏ノ疑アル者ハ其ノ指紋原紙ヲ作成シ民政部法務部又ハ監獄ニ送付シテ對照ヲ求ムルコトヲ得

指紋原紙ノ對照ハ表面欄外ニ別記第八號様式ノ記號印ヲ押捺シ添書ヲ要セス特ニ必要アル場合ハ符箋ヲ以テスヘシ

指紋原紙ヲ民政部法務部ニ送付スルニハ符箋ヲ以テ添書ニ代ヘ其ノ枚數ヲ附記スヘシ

第十一條 監獄ニ於テ指紋原紙及氏名索引ヲ作成シテ民政部法務部ニ送付シタルモノ死亡シタルコトノ認證ヲ得タルトキハ別記第九號様式ニ依リ毎年六月末日及十二月末日ノ二回ニ分チ期日後五日

以內ニ之ヲ報告シ其ノ監獄保存ノ指紋原紙及氏名索引ニ消印ヲ施シ之ヲ除去スヘシ

第十二條 監獄ニ於テ指紋原紙氏名索引其ノ他ノ報告ヲ定期ニ民政部法務部ニ送付スヘキトキハ別記第三號様式ニ依ル目錄ヲ添附スヘシ

(裏面) 追次番號 (索引)

| | | | | | | | |
|----------|------|----|----|-------|---------|---------|----------|
| 左手示指 | 自署氏名 | 本 | | | | | |
| | | 居住 | | | | | |
| | | 所出 | | | | | |
| | 別名 | 生地 | | | | | |
| | | 職 | 種 | | | | |
| | 業 | 族 | | | | | |
| | 備 | | | | | | |
| | 考 | | | | | | |
| 判決ヲ受タル氏名 | 罪名 | 刑名 | 刑期 | 言渡年月日 | 言渡法院又ハ廳 | 執行監獄又ハ廳 | 出獄年月日及事由 |
| 現犯 | | | | | | | |
| 受刑事項 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

第一號様式 (指紋原紙) 別記
 (用紙洋紙竪七寸八分横六寸五分)

(表面)

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|---|----|----|----|-----------------|---|---|---|
| 氏名 | 男 | 年 | 年 | 月 | 日 | 生 | 番左 | | | | |
| | 女 | 齡 | 當 | 歲 | 號右 | | | --- --- --- --- | | | |
| 左手 | 示 | 中 | 環 | 小 | 拇 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 右手 | 示 | 中 | 環 | 小 | 拇 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 左手 | | | | | | 右手 | | | | | |
| [Large empty space for fingerprints] | | | | | | | | | | | |
| 特徴 | | | | | | | 作 | 大正 年 月 日 | | | |
| | | | | | | | 成 | 何 | 廳 | 檢 | 印 |

(裏面)

追次番號

(原紙)

| 露出部ノ特徴 | | 備考 |
|--------------------|------------------------|-------------------|
| (圖略) | 顔輪廓 頭髮眼高眼球眼光眼臉眼尻眉尻眉毛上鬚 | 其他 |
| | 濃凸大銳單上上濃濃 リリ | |
| | 薄凹小鈍重下下薄薄 リリ | |
| | 下鬚頸肩先額傾斜稜面認足踏阿片纏足 | |
| 濃長平 (圖略) (圖略) 長外常經 | | |
| 薄短下リ 短内否否 | | |
| 本居地 | | |
| 住所 | | |
| 職業 | 種族 () 年齡 當 歲 | 日生作大正年月日 成臺監獄印 |

第二號樣式 (氏名索引) (用紙洋紙豎三寸七分橫五寸二分)

(表面)

| 氏名 | 別名 | 男 | 女 | 身長 | 尺 寸 分 | | 左 | 右 |
|----|----|----|----|--------|-------|----------------------|---|---|
| | | | | | No. | No. | | |
| 假名 | | | | | | | | |
| 受刑 | 罪名 | 刑名 | 刑期 | 言渡年月日 | 言渡官廳 | 出獄年月日及事由 | | |
| | | | | 大正年月日 | | 大正年月日 | | |
| | | | | 鼻 | | 耳 | | |
| | | | | 鼻鼻鼻 特徵 | | 耳輪 對耳 耳對耳 耳輪耳其 | | |
| | | | | 鼻鼻其 | | 輪輪耳 對耳角 耳角ノ 耳後ノ | | |
| | | | | 根筋底高幅他 | | 上後 耳架接著 側面形狀 間隔 輪厚開橫 | | |
| | | | | (圖略) | | (圖略) | | |

大正十二年八月二十日印刷
大正十二年八月二十三日發行

定價金貳圓

製複許不

編纂者 司法省指紋部
發行者 松井和義
印刷者 刑務協會印刷部

發行所

東京市麹町區西日比谷町一
番
振替東京二五〇五九番

刑務協會出版部

525
8

終

